

2 年次

基礎分野

1. 考え方

「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考とコミュニケーション能力を育成し、国際化や情報社会への対応能力（ICT活用能力）を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、感じる力、人とかかわる力、学び続ける力を備え、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

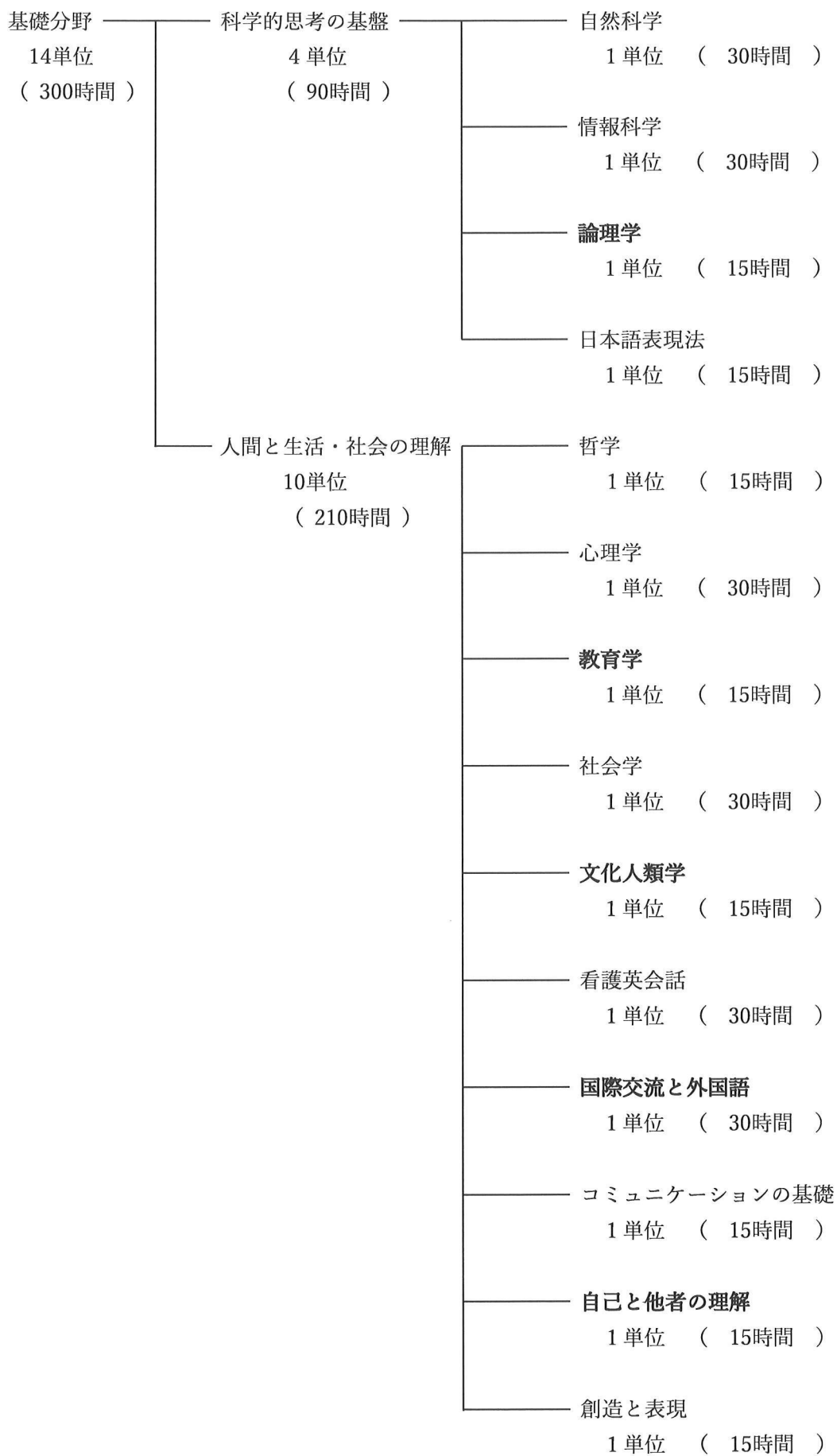
2. 目的

- 1) 科学的・論理的思考とコミュニケーション能力の基礎を養い、自ら学習する能力を育てる。
- 2) 人間と生活・社会を理解し、豊かな感性とともに自らが人間として成長する基礎を養う。

3. 目標

- 1) 看護に対応できる科学的思考の基礎を理解する。
- 2) 情報通信技術（ICT）を活用するための基礎を身につける。
- 3) わかりやすい表現、論理的思考を用いて、他者と適切に意思疎通するための基礎を身につける。
- 4) 人間理解のための哲学的思考、生命の尊厳、人間尊重の考え方を理解する。
- 5) 教育に関する基礎知識を学び、教育的関わりや学び続ける姿勢を身につける。
- 6) 国際化に対応し、さまざまな文化、社会、価値観の多様性を理解する。
- 7) 現代社会と家族を通して、社会的存在としての人間を理解する。
- 8) 人間関係の基礎的理論を学び、自己理解、他者理解を深めて他者と良好な関係を築くための基礎を身につける。

4. 基礎分野の構成



論理学		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	阿部 雅						
科目設定理由	筋道をたてて正しく考えるための思考の組み立てと法則を学び、客観的に議論し、論理的に自らを表現する力を習得し、看護におけるクリティカルシンキングの基礎を養うことが本科目のねらいである。						
科目目標	<p>1. 筋道を立てて主張を展開する論理的思考法を獲得する。</p> <p>2. 議論を通して、意見に異にする相手と建設的なコミュニケーションをはかる。論理的な思考は、的確な判断や行動に不可欠であり、また他者とのコミュニケーションを支えるものである。論理学の基礎的な知識を身につけることで、筋道を立てて考える力を養う。併せてグループディスカッションや論述の課題に取り組むことで、論理的思考法の日常的な実践を目指す。</p>						
回数	担当講師	講義内容					
1	阿部 雅	論理学と論理的思考、さまざまな接続関係①					
2		さまざまな接続関係②					
3		推論					
4		演繹・帰納・仮説の評価					
5		批判的思考①					
6		グループディスカッション①					
7		批判的思考②					
8		グループディスカッション②					
使用テキスト 資料を配布する。							
評価方法 授業内課題および試験で評価する。							
授業を受ける際の留意点 国語辞書を用いること。できれば広辞苑や大辞林が入っている電子辞書が望ましい。							
担当講師の実務経験 大学、看護師養成所で当該科目等の非常勤講師の経験を有する							

教育学		開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	花田 春香						
科目設定理由	学校教育をはじめ様々な分野・場面における教育課題をとりあげながら、教育に関する基礎知識を習得し、教育的関わりや学び続ける姿勢をもつ素地を身につけることをねらいとする。						
科目目標	1. 教育に関する基礎的知識を習得する。 とくに、学校・家庭・社会における教育機関の多様性について理解する。 2. 現代的な教育課題を把握し、解決に向けた思考を実践する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	花田 春香	第1回 ガイダンス/教育と看護					
2		第2回 教育とはどのような営みか					
3		第3回 教育と子どもたち① -学校の歴史と学校におけるケアと養護-					
4		第4回 教育と子どもたち② -学校と家庭で育つ-					
5		第5回 ダイバシティとインクルーシヴ①					
6		第6回 ダイバシティとインクルーシヴ②					
7		第7回 教育と大人たち -教える大人と学ぶ大人-					
8		第8回 「能力」を考える					
使用テキスト 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 講義資料を e-ラーニングにアップロードします							
評価方法 試験、出席/参加度(授業毎に課題を提示します)							
担当講師の実務経験 大学等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。							

文化人類学		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	杉井 純一						
科目設定理由	看護はすべての人間の生活が対象であり、宗教、親族関係、政治、法律、教育、技術、言語、環境、世界観といったさまざまな文化的背景をもつ人に応じた対応が必要となる。本科目では、文化人類学の諸テーマの内、特に生命と宗教をめぐる諸問題に焦点を当て、多様な文化を持つ人々との共存について理解を深めることをねらいとする。						
科目目標	さまざまな文化を学び、多様な文化・社会・価値観があることを理解する。国際社会と日本文化・社会・価値観を比較考察する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	杉井 純一	<p>グローバル化の時代、日本でも普通の人たちが世界中の人々と日常空間を共にするのが当たり前になっています。本講義では、文化人類学の諸テーマの内、特に生命と宗教をめぐる諸問題に焦点を当てながら、多様な文化を持つ人々との共存について各自が考えていくきっかけを作っていけたらと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間と文化 <ol style="list-style-type: none"> 文化人類学とは何か 文化とは何か 個人・家族・コミュニティ <ol style="list-style-type: none"> アイデンティティとジェンダー 婚姻と家族 人生と通過儀礼 <ol style="list-style-type: none"> 儀礼の種類と構造 人生儀礼 宗教と世界観 <ol style="list-style-type: none"> 呪術と病気 神話とコスモロジー 健康・病気・医療 <ol style="list-style-type: none"> 健康と病気 医療の文化的体系 健康リスクとグローバリゼーション 人間と死 <ol style="list-style-type: none"> 医療と死 死者儀礼と不浄観念 					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
使用テキスト 使用しません。授業時にプリントを配ってそれに基づいて講義を進めます。 また、適宜、関連する映像を視聴し、その感想文を書くことがあります。							
参考図書 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 波平恵美子編 医学書院							
評価方法 成績は、試験と平常点(感想文)から総合的に判断します。							
担当講師の実務経験 大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。							

国際交流と外国語		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	小幡 慶子						
科目設定理由	グローバル社会の中で看護職として活躍するためには、さまざまな国の人との交流を通して相手の文化的背景や日常生活を理解しながら、コミュニケーションを深める経験が必要である。将来、どのような文化的背景をもった人に対しても多様性に配慮した看護を実践できる国際感覚を身につけることを目指す。						
科目目標	1. 外国語を使って簡単な日常会話やある程度の意味疎通を経験し、日本語を母国語としない人とのコミュニケーションの垣根を低くすることをめざす。 2. さまざまな国の人との交流を通して、多様性や国際感覚を身につける。						
回数	担当講師	講義内容					
1	ダウニー・ジェイソン・デビッド 齊藤 ゆり子	在住外国人の日常生活支援を知ろう！(英語 - English) — Let's know the daily life support of foreign residents!					
2							
3							
4							
5	ジッリオ・エマヌエーレ・ダヴィデ	在住外国人の日常生活支援を知ろう！(イタリア語 - Italiano) 地中海文化圏とヨーロッパ語圏 — Capiamo come essere di supporto ai residenti stranieri!					
6							
7							
8	榎園 美愛	在住外国人の日常生活支援を知ろう！(韓国語 - 한국어) — 거주 외국인의 일상생활 지원을 알자!					
9							
10							
11							
12	藤上 理奈	在住外国人の日常生活支援を知ろう！(中国語 - 中文) — 知道居住外國人的日常生活支援!					
13							
14							
15							
使用テキスト							
特になし 必要時、適宜配布する。							
評価方法							
授業内パフォーマンスによる。							
担当講師の実務経験							
特定非営利活動法人 柏市国際交流協会(KIRA)所属 幅広い分野の国際交流の経験を有する。 企業内教育プログラム講師、英会話スクール等に所属 幅広い年代やレベルの指導経験を有する。							

自己と他者の理解		開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	村上 志保						
科目設定理由	人間関係成立のための基礎として自己理解、他者理解は重要である。体験的に自己を見つめ、他者と関わり、協調やチームワーク、互いを活かしかう感覚を育てていくことをねらいとする。						
科目目標	人間関係の基本的理論を土台に、体験を通して自己理解を深め人間関係のあり方を学ぶ。他者との交流の中で、自己を受容することを学び、それによって相手への真の共感が可能になることを体験する。						
回数	担当講師	学習形態	講義内容				
1	村上 志保	演習	1. 分かりにくい記号を読み解く (あ行トーク・サイレントトーク・ジェスチャートーク)				
2			2. フォースド チョイス				
3			3. おもしろレジャーランド				
4			4. 身体を使ったワーク①				
5			5. 身体を使ったワーク②				
6			6. 流れ星 (どう伝えるか、どう受け取るか)				
7			7. 介入的援助 (19章)				
8			8. 多面鏡				
使用テキスト							
中井喜美子 近藤千恵:看護ふれあい講座 照林社							
評価方法							
1. 参加度 2. レポート(毎回提出)							
担当講師の実務経験							
当該分野の博士課程を経て、親業訓練協会インストラクターとして多数の講演・講座の経験を有する。							

専門基礎分野

1. 考え方

「専門基礎分野」は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

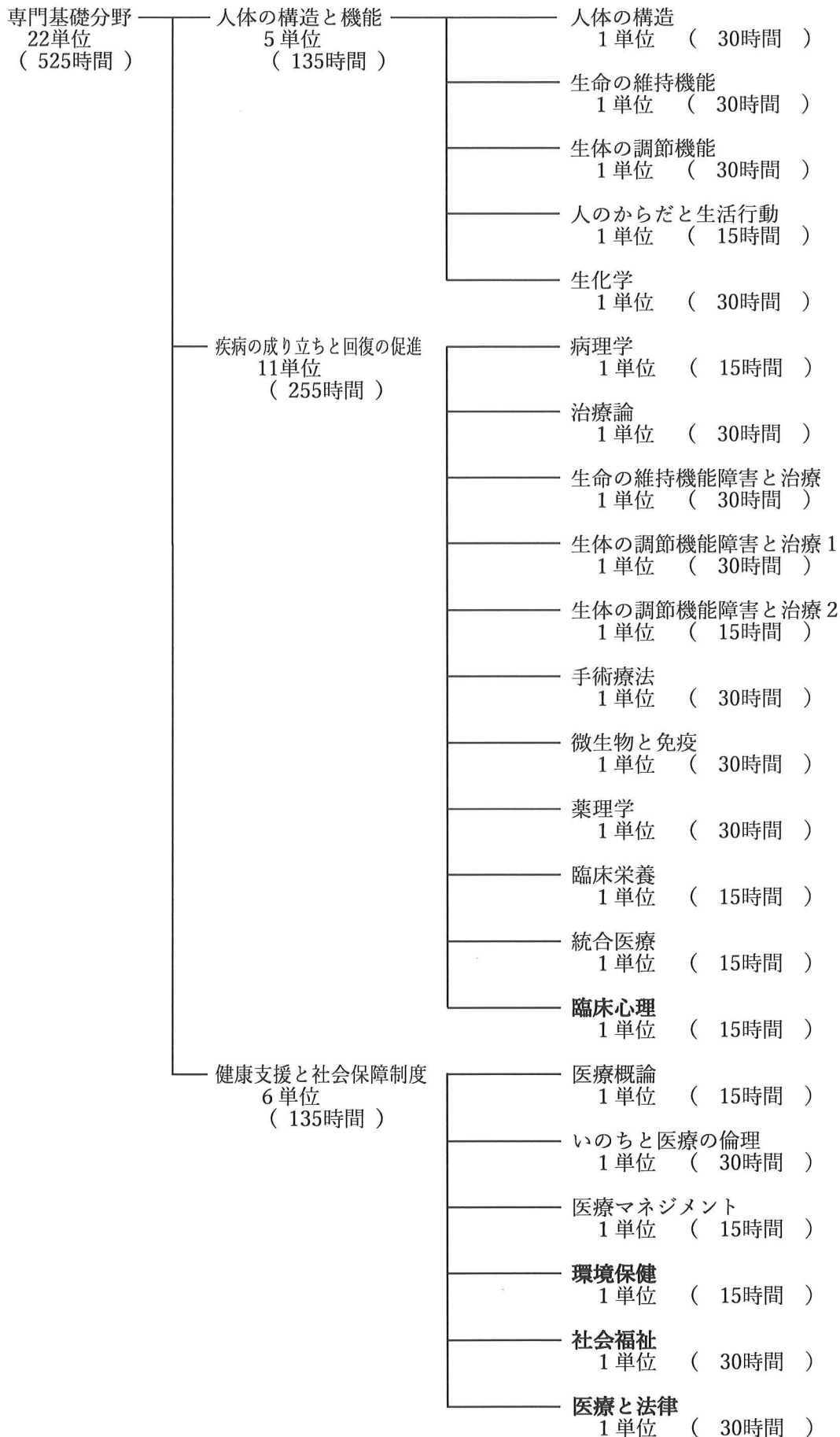
2. 目的

- 1) 日常生活行動を営むための人間の生命現象の基礎を理解する。
- 2) 生活との関連において、健康から疾病にいたる変化のプロセスと回復のメカニズムを理解する。
- 3) 人々の健康や障害の状態に応じた社会保障制度を理解する。

3. 目標

- 1) 人体の発生と形態、構造と生命の維持、調節機能を理解する。
- 2) 人体の構造と機能と生活行動を結びつけて系統的に理解する。
- 3) 生体を構成する物質と代謝の機能を理解する。
- 4) 病因と病変の特徴と、系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。
- 5) 微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する。
- 6) 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知り、臨床薬理の実際を理解する。
- 7) 各栄養素の栄養的意義と臨床栄養の実際を理解する。
- 8) 健康生活と薬、東洋医学や補完代替療法の基礎を理解する。
- 9) 人びとの心理的問題や心理療法、病む人の心への援助を理解する。
- 10) 医療を担う専門職者として、医療、健康、疾病の考え方、連携、協働の必要性を理解する。
- 11) 生命倫理の基礎を理解し、倫理に基づいて行動する力を身につける。
- 12) 環境保健に関する諸統計と保健活動、保健医療福祉の動向、制度を理解する。
- 13) 医療システムや関係する法規を知り、医療従事者として責務と責任を理解する。

4. 専門基礎分野の構成



<h1>臨床心理</h1>		開講時期	2年次 前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	飯塚 浩／小川 佳那						
科目設定理由	人びとの心理的な問題や不適応行動、心理療法などの基礎知識を学び、病む人の心への援助的関わりに活かすことをねらいとする。						
科目目標	さまざまな健康障害を持つ人の心理的な問題や不適応行動、心理療法などの基礎知識を学び、病む人の心への援助的関わりに活かす。						
回数	担当講師	講義内容					
1	飯塚 浩	1. 臨床心理学の概要					
2		2. 学習と動機づけに関する理論					
3		3. 学習と動機づけに関する理論					
4		4. 発達段階に関する理論					
5	小川 佳那	5. 心の適応と不適応					
6		6. 心理検査					
7		7. 心理療法					
8		8. 患者と家族の心理					
使用テキスト 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 長田久雄 看護学生のための心理学 第2版 医学書院 必要に応じて資料を配布する。							
評価方法 試験で評価する。							
担当講師の実務経験 駒澤大学コミュニティ・ケアセンター 公認心理師・臨床心理士 東京慈恵会医科大学附属柏病院 精神神経科 臨床心理士							

環境保健		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	白土 健						
科目設定理由	環境保健、公衆衛生の基本的内容、人々の健康増進に対応した保健活動のすすめ方や法制度を理解することをねらいとする。						
科目目標	人々の健康を守る環境保健、公衆衛生活動を学ぶ。						
回数	担当講師	講義内容					
1	白土 健	1. 健康と公衆衛生 1) 公衆衛生の概念 (1) 公衆衛生の領域と活動の特徴 (2) プライマリーヘルスケア (3) 国際的な協力と連携					
2		2) 健康と環境 (1) 健康の概念 (2) 生態学的環境 (3) 物理化学的環境 (4) 身体的・精神・心理的環境					
3		3) 疫学的方法による健康の理解 (1) 疾病の多発とその要因 (2) 疫学調査					
4		2. 健康指標と予防 1) 健康に関連した統計 (1) 国勢調査 (2) 人口動態 (3) 出生 (4) 死亡・死因 (5) 死産、周産期死亡、乳児死亡 (6) 平均余命、平均寿命					
5		2) 感染症とその予防 (1) 感染症の成立要因と対策 (2) 感染症に関する法律					
6		3. 生活環境の保全 1) 衣・住生活と健康 2) 食生活と健康 (1) 食生活と食品 (2) 食品の保存、加工調理 (3) 食品管理					
7		3) 地域環境衛生 (1) 上水道・下水道 (2) 廃棄物処理					
8		4. 精神保健 1) 精神の健康 2) 精神障害とその対策 5. 保健活動 地域保健・学校保健・産業保健・難病保健・国際保健・災害保健					
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院 随時、資料を配布する。							
評価方法 試験で評価する。							
担当講師の実務経験 杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学教室							

社会福祉		開講時期	2年次 通年	単位数	1	時間数	30
科目責任者	袴田 洋子						
科目設定理由	社会における福祉の動向を捉え、社会保障の理念と基本的な制度を学び、看護活動に活かすことをねらいとする。						
科目目標	社会福祉に必要な知識、技術の基礎を理解し、現代社会における社会福祉の意義について知る。また、看護者として、どのような援助ができるかを各自で考察する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	袴田 洋子	<p>1. 社会保障制度と社会福祉 社会保障の制度（概念、目的、機能、体系）とその内容および、社会福祉の法制度について、その歴史的展開を踏まえて学ぶ</p> <p>2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 近年のわが国における社会や経済の変化を理解し、今後の社会保障・社会福祉がどのような方向をめざしているのか、その基本的な動向について学ぶ</p> <p>3. 医療保障 わが国の医療保障制度の特徴を理解するため、どのような経緯で成立してきたのか、その沿革と現在の制度の内容、今後の動向について学ぶ</p> <p>4. 介護保障 介護保険制度成立の経緯や現在の制度の概要に加え、今後の課題と展望について学ぶ</p> <p>5. 所得保障 所得保障は、所得の得られない人々に対し、現金を給付して所得を保障する制度である。人々の生活を支える所得保障を学ぶことは、たとえば患者の生活背景を知る手がかりにもなる。所得保障制度全体を概観したのち、年金保険、社会手当、労働保険を学ぶ</p> <p>6. 公的扶助 生活保護制度を中心に、現代社会における貧困や低所得問題に対応する公的扶助制度について学ぶ</p> <p>7. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉の各分野について、その実態と課題を知り、それに対してどのような施策が展開されているかを学ぶ</p> <p>8. 社会福祉実践と医療・看護 本章では、援助とはなにかを学ぶ 医療現場、地域社会など多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤として、どのような場合に援助が必要なのか、どのような援助方法があるのかを理解する</p>					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
医療・介護(居宅介護支援事業所)分野で看護師、保健師、社会福祉士、ケアマネージャーとしての経験を有する。							

<h1>医療と法律</h1>		開講時期	2年次 前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	寺田 成美						
科目設定理由	法の基礎知識と保健医療関係法規を理解し、人々の健康を支援する医療従事者としてさらに看護職者として、業務遂行についての法的責任を自覚し、義務と責任を学ぶことをねらいとする。						
科目目標	1. 医療に関する関係法規を理解し、医療従事者としての義務と責任を学ぶ。 2. 保健師助産師看護師法を学び看護職としての業務遂行の法的責任を自覚する。 3. 看護職の人材確保に関する法律、医療法や関連職種を規定する法律を理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	柴田 幸治	1. 衛生法規					
2		1) 医事法規 国民の医療を確保するため、医療体制の整備、および医師や看護師などの医療関係者の資格や業務、病院などの医療施設の設備・運営などを規定することを目的としている法規について学ぶ					
3		2) 薬務法規 医薬品・医療用具、その他国民の衛生上必要とする物品の製造・販売・取り扱いなどを規定することを目的としている法規について学ぶ					
4		3) 保健衛生法規 国民に対して一般的にその健康の保持・増進をはかることを目的としている法規について学ぶ					
5		4) 予防衛生法規 特定の疾病を予防することを目的としている法規について学ぶ					
6		5) 環境衛生法規 生活環境の維持・改善を目的としている法規について学ぶ					
7		2. 福祉関係法規					
8		3. 労働基準法 看護職が労働者として、又、働く者の健康を守る立場として基本的知識を学ぶ					
9	寺田 成美	1. 「保健師助産師看護師法」成立の経緯・変遷					
10		1) 保健師助産師看護師法成立以前の規則					
11		2) GHQによる改革					
12		2. 保健師助産師看護師法 ・目的・定義 ・保健師助産師看護師法の構造と付属法令 ・免許 ・試験 ・学校、養成所 ・業務 など					
13		3. 看護職の人材確保の促進に向けた法律 ・意義、目的 など					
14		4. 関連職種を規定する法律 1) 医療法の目的と規定内容 2) 関連職種を規定する法律					
15		5. 医療過誤をとおして考える業務の範囲 1) 医療事故等の定義と種類 2) 看護行為における安全安楽の保障 3) 医療行為の法規制 4) 看護業務における注意義務					
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
千葉感染制御研究所 感染予防対策に関する指導、啓発、衛生法令分野の講師としての経験を有する。 長く看護教育に携わり、看護専門学校の教務主任の経験を有する。							

基礎看護学

1. 考え方

基礎看護学では、すべての健康レベルにある人々を理解し、より健康で豊かな生活を送れるよう最善な援助を行うために必要となる基本的な知識・技術・態度を学習する。

専門分野であるすべての看護学の礎となる科目群であり、基礎分野・専門基礎分野での学びを基に、看護学に関する基本となる考え方、人間・環境・健康・看護についての概念、基礎となる看護技術、看護の役割を遂行するために必要な基礎的能力、看護過程を展開し応用できる能力を育成する。

社会は時代と共に変動し、看護に期待する役割も変化している。看護職は、多職種との連携、協働の中で、人びとの心身の健康の保持増進に寄与することが求められている。そのため、人間の健康の保持増進、回復、安寧な死に向けての保健医療福祉サービスの必要性についても学ぶ。さらに、先人の看護理論とわが国の看護史の礎である慈恵看護の変遷を学び、研究的態度を身につけて、生涯にわたり看護の本質を探究しつづける力の素地を養う科目群として位置づける。

2. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義、看護の対象としての人間、看護の概念、並びに保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を認識し、看護の基礎となる知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 人間のライフサイクルにおける健康の意義について理解できる。
- 2) 看護の対象を、身体的・精神的・社会的側面から学び、統一体として理解できる。
- 3) 看護の概念を学び、看護の役割を理解できる。
- 4) 慈恵看護史の学びを通して、看護理論の成立が理解できる。
- 5) 看護研究の意義が理解できる。
- 6) 看護実践における基礎看護技術を習得し、応用できる能力を養うことができる。

4. 基礎看護学の構成



看護過程の展開		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30				
科目責任者	柳原和代										
科目設定理由	看護を実践するためには、問題解決思考に基づいたアセスメント、看護上の問題の特定、計画立案、実施、評価という看護過程のステップを踏む必要がある。対象に応じた看護実践とケアの質を維持、保証するための看護過程の展開の基礎的能力を身につけることをねらいとする。										
科目目標	対象に応じた看護過程を展開する基礎的能力を養う。										
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容							
1	柳原和代	講義	看護過程の概念を理解する	1. 看護過程とは 1) 看護過程展開の基盤となる考え方 2) 問題解決過程とクリティカルシンキング							
2		講義	看護過程展開の基礎的要素を理解する	2. 看護過程の段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 計画 4) 実施 5) 評価							
3				講義	科学的看護論の思考過程を理解する	3. 看護過程の展開 1) 科学的看護論の理論 2) 看護過程展開の技術					
4						講義	科学的看護論の思考過程を活用し事例展開する	4. 看護過程展開の実際 <ケース1>			
5								柳原和代 他	科学的看護論の思考過程を活用し事例展開する	<ケース2> ケース紹介と個人ワークの導入 情報整理・アセスメントにより全体像の把握	
6		グループワーク	看護上の問題抽出 看護上の問題の構成要素確認								
7			中位目標・上位目標の設定								
8			下位目標の設定								
9		講義	まとめ（共通理解）								
10	グループワーク	日々の看護展開									
11	グループワーク										
12	グループワーク										
13	グループワーク										
14	講義										
15	グループワーク										
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会											
評価方法 グループワークでの参加状況・理解度・試験によって評価する。											
担当講師の実務経験 専任看護教員											

看護研究の基礎

開講時期

2年次
後期

単位数

1

時間数

15

科目責任者 都留 万里子

科目設定理由

看護研究の意義、研究のプロセス等について基礎的な知識を学び、3年次「看護研究の実際」につながる科目として位置づけ、質の高い看護を探求する姿勢を身につけることをねらいとする。

科目目標

看護における研究の意義がわかり、研究の方法、文献検索、文献批評、倫理的配慮、研究計画書、発表等についての基本的知識を理解する。

基礎看護学

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	都留万里子	講義	看護研究とは何かについて知り、研究に取り組む基本的な姿勢について考える 基本的な研究の進め方がわかる	1. 研究とは 2. 看護領域における研究 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義と目的 3. 研究の構成要素とプロセス 1) 研究論文の種類 2) 研究論文の構成要素 3) 研究のプロセス
2		講義	研究デザインと研究方法の概要がわかる	4. 研究の方法 1) 研究のアプローチ法 2) 研究の種類 3) データの種類と収集の方法 4) 量的研究・質的研究
3		講義 ワーク	看護研究における文献検索の意義と方法がわかる 文献検索の実際を体験する	5. 文献検索の意義と方法 1) 文献とは 2) 文献検索の意義 3) 文献の種類 4) 文献検索と整理の方法 5) 文献検索の実際
4		講義 ワーク	研究論文の批評の必要性和方法がわかる	6. 文献の批評（クリティーク） 1) 文献の批評（クリティーク）とは 2) 文献批評の実際
5		講義	研究における倫理的配慮の必要性がわかる	7. 看護研究における倫理 1) 研究において擁護されるべき権利 2) 検討考慮される項目 3) 倫理的配慮の記載例
6		講義 ワーク	研究計画書の意義と要点がわかる	8. 研究計画書作成の意義と要点 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の記載事項
7		講義 ワーク	研究テーマを見いだす思考のしかたがわかる	9. 研究テーマの設定 1) 問題の意識化・明確化・客観化・一般化 2) エピソード記述
8		講義	研究における発表の意義と実際がわかる	10. 発表の意義と実際 1) 発表と共有の場 2) 発表の種類 3) 発表の準備と実際

使用テキスト

李節子：看護研究こころえ帳 第3版 研究の基本からプレゼンテーションまで 医歯薬出版

評価方法

ワークの取り組み・課題の提出状況 および 試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員

地域・在宅看護論

1. 考え方

他国に類を見ない、急速な少子高齢社会が進展している。平均寿命やがん罹患後の生存年数の延伸など、社会情勢の変化や医療の発展に伴い社会のニーズも大きく変化している。医療・看護に対する人びとのニーズも増大し、多様化・複雑化している。そこで生活の質に焦点をあて、疾病や障害があっても、住み慣れた生活の場でその人らしく生活することを支えることが求められる。地域を基盤とした「地域包括ケアシステム」を導入し、従来の病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型の体制への転換を図っている。多くの人びとが、住み慣れた地域において療養生活をできるようになり、健康の維持・増進、疾病の予防から始まり、疾病・障害を抱えながら療養生活を継続し、人生の終焉を迎えるまで地域で支えることが求められている。

そのため、地域・在宅看護論は、地域で療養している人に限らず、地域で生活する人びととその家族を対象とし、地域における多様な場での看護を学ぶ。更に病院から在宅への移行支援や継続看護を理解し、地域で生活する人びとと家族が、生活の場でよりその人らしい生活が送れるような療養生活の援助をするための基礎的能力を養う。

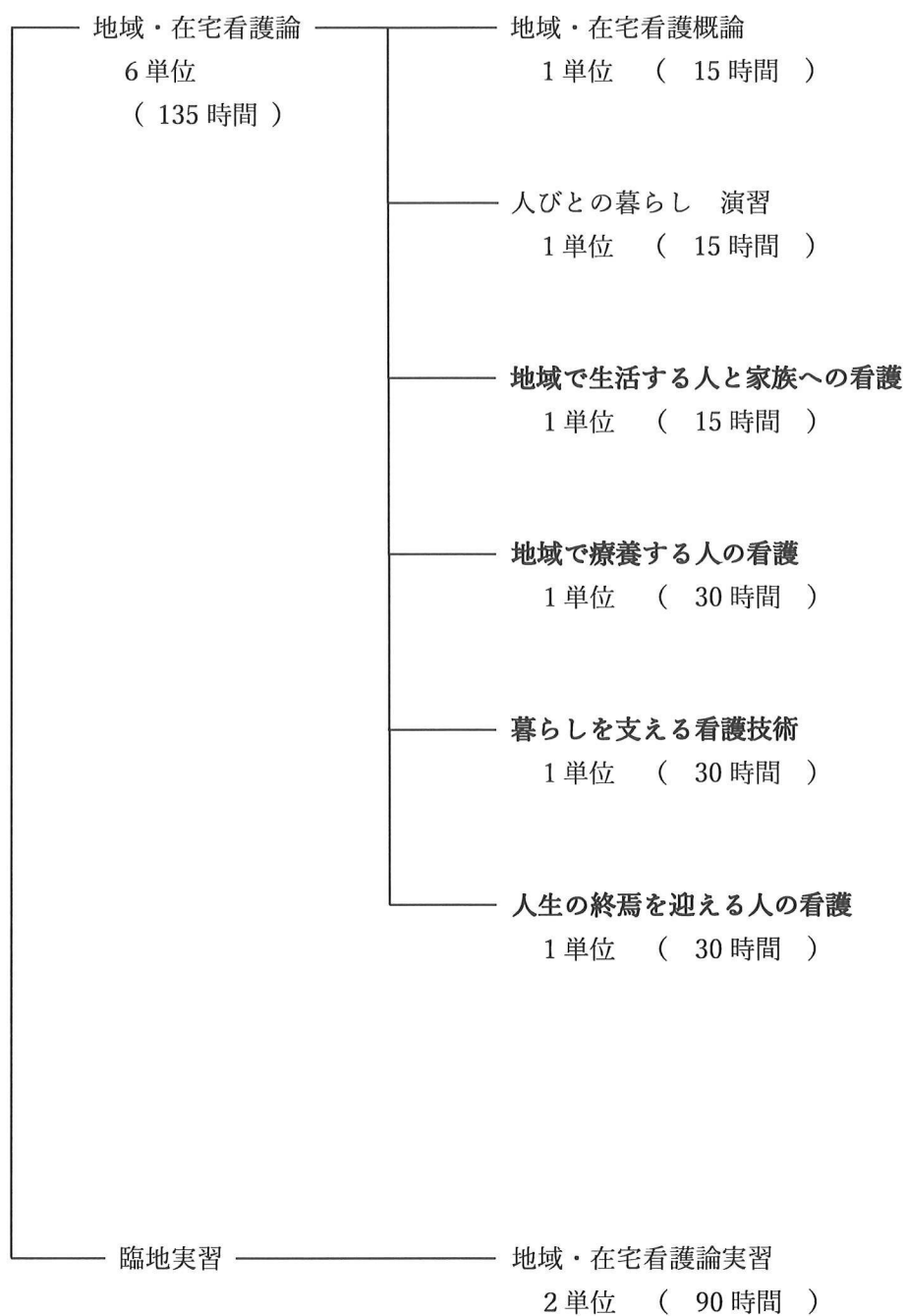
2. 目的

地域で生活する人とその家族を理解し、健康支援の看護や地域で療養生活の継続に向けての看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 地域で生活する人びとの暮らしと地域の特性を理解する。
- 2) 地域・在宅看護の変遷を知り、地域・在宅看護の必要性が理解できる。
- 3) 地域・在宅看護の対象を理解できる。
- 4) 地域で生活する人と家族の健康支援について理解できる。
- 5) 地域で療養する人と家族が、療養生活の継続に向けての看護が理解できる。
- 6) 地域・在宅における社会資源の活用について理解できる。
- 7) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携の必要性を理解できる。
- 8) 在宅看護に必要な態度やマナーについて理解できる。

4. 地域・在宅看護論の構成



地域で生活する人と家族への看護					開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		柳原 和代								
科目設定理由		地域で生活する人びとと家族の健康支援について理解する。在宅での療養生活を支える家族への看護の実践に必要な基礎的能力を養うことをねらいとする。								
科目目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人と家族の健康支援は、保健・医療・福祉の領域で構成されていることを学ぶ。 2. 地域社会を構成する最小単位である家族についての理解を深める。 3. 在宅療養の場における家族の特徴について理解する。 4. 家族形態に応じた在宅療養者の家族への支援を理解する。 								
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容						
1	柳原和代	講義	在宅看護における家族の捉えかたを理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における家族 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の定義 2) 家族の機能 3) 家族の発達と課題 						
2		講義	看護の対象者としての家族を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 2. 在宅看護における家族支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族介護者の健康・介護負担 2) 家族の受け止め方への支援 						
3	荒関亜紗美	講義	家族を取り巻く社会・文化的背景を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 3. 家族を取り巻く社会的・文化的背景 						
4		講義	家族のセルフケア機能のアセスメントの必要性を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 4. 家族のセルフケア機能のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集 2) 課題の明確化 3) 家族の対処能力 						
5	訪問看護ステーション 看護師 箕輪和子	講義 グループワーク	地域で生活する人と家族への看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 5. 地域で生活する人と家族への訪問看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報提供と意思決定支援 2) 療養・介護指導 3) 相談と支援的援助 4) 家族関係の調整 						
6		講義 グループワーク	地域で生活する人と家族を支援する地域システムを理解する	<ol style="list-style-type: none"> 6. 地域システムの視点からの家族支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域のサポート 2) ピアサポート 3) レスパイトケア 						
7	横瀬洋子	講義	地域で生活する人と家族の健康支援について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 7. 地域の健康とヘルスプロモーション活動 8. 地域で生活する人としての対象者 9. 個人・家族・集団・コミュニティ（地域）を対象とした看護 						
8	保健師	講義	健康支援、保健活動の実際を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 10. 変化する健康課題と地域での看護活動 11. 健康支援、保健活動の実際 保健師の役割 						
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実際 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会										
評価方法 試験で評価する。										
担当講師の実務経験 専任看護教員 保健所の保健師として、地域住民の保健指導や健康管理の経験を有する。 訪問看護ステーションで在宅での訪問看護の経験を有する。										

地域で療養する人の看護

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

30

科目責任者 柳原 和代

科目設定理由

地域で療養生活が継続できるように、制度や地域包括ケアシステム等の必要性を理解する。さらに、多職種との連携・協働を学び、チーム医療における看護職の役割を学ぶことをねらいとする。

科目目標

1. 地域で療養する人の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を理解する。
2. 在宅看護におけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本・多職種との連携の必要性および社会資源について理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	根本明美	講義	在宅看護の機能と役割を理解する	1. 地域療養を支える在宅看護の機能と役割 1) 在宅看護の概念 2) 在宅看護の役割と機能 3) 在宅看護を展開するための基本理念
2		講義	地域療養を支える各制度について理解する	2. 地域療養を支える制度① 1) 医療保険制度 2) 後期高齢者医療制度 3) 医療法 4) 医療介護総合確保推進法 5) 難病法 6) 障害者に関する法律 7) 子供の在宅療養を支える制度と社会資源 8) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 9) その他のおもな公費負担医療
3		講義 グループワーク		3. 地域療養を支える制度② 介護保険制度
4				4. 在宅看護の基本 (自立・自律支援、リスクマネジメント、 権利擁護、多職種協働)
5		講義	在宅看護における看護師の基本的視点を理解する	5. 在宅看護の提供方法 (PFM・外来看護・訪問看護・施設での看護・ 通所サービスでの看護)
6	荒関亜紗美	講義	在宅看護の提供の場と特徴を理解する	6. 地域療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特性と機能 2) 訪問看護の展開 ・訪問看護の利用者 ・訪問看護ステーションの規定 ・訪問看護の利用までの流れ 3) 訪問看護の費用
7	柳原和代	講義	訪問看護制度とサービス提供の具体的な内容を理解する	7. ケアマネジメントと社会資源の活用 1) ケアマネジメントの概念 2) 社会資源の活用 3) 介護保険制度におけるケアマネジメント
8	荒関亜紗美	講義	在宅看護のケアマネジメントを理解する 地域における多職種連携の必要性を理解する	8. 地域における多職種連携 1) 在宅における連携の特徴 2) 多職種連携 ・医師との連携 ・介護支援専門員との連携 ・地域の社会資源との連携 3) ネットワークづくり

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容																		
9	看護師	講義	療養の移行時において看護師が行う支援、多職種連携について理解する	9. 療養の場の移行に伴う看護、多職種連携 1) 患者・家族の意思決定支援 2) PFM・退院支援・退院調整																		
10	看護師	講義		3) 退院支援・退院調整の実際 4) 地域での療養を継続するための多職種連携の実際																		
11	医療ソーシャルワーカー 平塚 文美江	講義	他の専門職の視点から退院支援・退院調整の実際、多職種連携を理解する	5) 医療ソーシャルワーカーの役割、多職種連携 6) 退院支援・退院調整の実際																		
12	吉江 悟	講義	訪問看護の実際を理解する	10. 地域での訪問看護の実際 1) 生活の場に応じた看護 2) 在宅における連携 3) 地域のネットワークの活用																		
13	吉江 悟	講義	在宅看護における倫理的課題について理解する 訪問看護においての倫理的配慮を考慮した看護を理解する	11. 在宅看護における倫理 1) 看護倫理の概要 2) 在宅看護特有の倫理問題 12. 訪問看護倫理要綱 1) 在宅看護の対象者の権利 2) 訪問看護師の使命 3) 訪問看護師とチームケア																		
14	柳原和代	講義	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割を理解する	13. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護 1) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 2) 地域包括ケア病棟																		
15	地域医療連携センターの保健師	講義	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携の必要性を理解する	3) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 ・行政機関との連携 ・地域包括支援センターとの連携 ・各事業所との連携 ・住民との連携と見守りネットワーク等 4) 地域医療連携センターの役割と活動																		
使用テキスト																						
<table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>地域・在宅看護論</td> <td>1</td> <td>地域・在宅看護の基盤</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>地域・在宅看護論</td> <td>2</td> <td>地域・在宅看護の実際</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	1	地域・在宅看護の基盤	医学書院	系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	2	地域・在宅看護の実際	医学書院	国民衛生の動向	厚生統計協会				
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	1	地域・在宅看護の基盤	医学書院																	
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	2	地域・在宅看護の実際	医学書院																	
国民衛生の動向	厚生統計協会																					
評価方法																						
試験で評価する。																						
担当講師の実務経験																						
専任看護教員 東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護師・医療ソーシャルワーカー 地域医療連携センターで地域の療養生活の支援経験を有する。 訪問看護ステーションで在宅での訪問看護の経験を有する。																						

暮らしを支える看護技術

開講時期

2年次
後期

単位数

1

時間数

30

科目責任者

柳原 和代

科目設定理由

在宅で必要とされる看護技術について、家庭という場を考慮した具体的な生活支援のありかたと訪問技術を学ぶ。また医療管理を必要とする在宅での看護技術も学ぶことをねらいとする。

科目目標

1. 在宅における日常生活の援助、ならびに医療管理の援助における援助技術を学ぶ。
2. 在宅での看護過程の特徴を理解し、展開方法を学ぶ。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	柳原和代	講義	在宅への訪問時の態度やマナーについての理解を深め、同行訪問時の態度変容につなげることができる	1. 訪問時の面接技術・訪問時のマナー
2		グループワーク 演習		2. コミュニケーション技術 (ロールプレイ)
3				
4	荒関亜沙美	講義	在宅での膀胱留置カテーテル、摘便の援助方法を理解する	3. 在宅での排泄を整える技術 ・膀胱留置カテーテル ・摘便
5	理学療法士 勝本 公章	講義	在宅でのリハビリテーションの実際を理解する	4. 在宅におけるリハビリテーションの実際
6	根本明美	講義	在宅における感染予防の援助方法を理解する	5. 在宅における感染予防
7	荒関亜紗美	講義	在宅酸素療法と在宅における人工呼吸療法の援助方法を理解する	6. 在宅で酸素療法を必要とする人の援助 1) 在宅酸素療法 (HOT)
8		講義		2) 非侵襲的陽圧換気療法 (NIPPV) 3) 在宅人工呼吸療法 (HMPV)
9		講義 演習		7. 在宅酸素療法 (HOT) の管理
10	荒関亜紗美	講義	在宅での経管栄養法と在宅中心静脈栄養法の援助方法を理解する	8. 在宅での経管栄養法 (経鼻経管栄養法・胃瘻) ・在宅中心静脈栄養法 (HPN) を必要とする人の援助
11	柳原和代 荒関亜沙美 横瀬洋子 他	演習		9. 在宅での経管栄養法 (経鼻経管栄養法) ・ 在宅中心静脈栄養法 (HPN) の管理
12				

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容		
13	柳原和代	講義	災害時の在宅看護について、訪問看護師の役割や対応などを学ぶ	10. 在宅療養における災害時の援助 1) 在宅療養における災害時の対応 ・安否確認 ・援助の見直しと対応 ・防災対策と減災対策の指導 2) 災害時の訪問看護ステーションの備え 3) 福祉機関と行政との連携		
14	柳原和代	講義	在宅での看護過程の特徴を学び、訪問看護での看護過程の展開を理解する	11. 在宅看護過程の展開 1) 訪問看護における看護過程の特徴 (情報収集・アセスメント・計画立案 実施・評価) 2) 初回訪問		
15				3) 訪問看護で使用する記録 4) 訪問時の留意点		
使用テキスト						
	系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	1	地域・在宅看護の基盤	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	2	地域・在宅看護の実践	医学書院
評価方法						
レポート内容、試験で評価する。						
担当講師の実務経験						
専任看護教員 理学療法士としての訪問リハビリの経験を有する。						

人生の終焉を迎える人の看護

開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
------	-------	-----	---	-----	----

科目責任者		柳原 和代			
科目設定理由		看取りの看護を実践するために必要な終末期看護の基礎的知識について理解する。また人生の終焉を迎える人と家族への看護について学ぶことをねらいとする。			
科目目標		1. 終末期を迎える人と家族・遺族の特徴と看護の役割を理解する。 2. 人生の終焉を迎える人と家族の全人的苦痛の緩和とQOL向上に向けた援助について理解する。 3. 人間の尊厳・告知・いのちなどについての理解を深め、自己の死生観を養う。			
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
1	中尾みさ子	講義	緩和・終末期看護の概念を理解する	1. 緩和・終末期看護の考え方 1) 生と死を考える (1) 生と死とは何か (2) 死にまつわる歴史と文化 2) 生と死と看護 (1) 死生観 (2) 人生の終焉(終末期)とは (3) 緩和ケアとは	
2		講義グループワーク	終末期における倫理的課題を理解する	2. 死をめぐる倫理的看護の歴史と現状 1) 終末期におけるコミュニケーションと意思決定支援	
3		講義	緩和・終末期看護の歴史を理解する 終末期にある人が最期を迎える場所を理解する	3. 緩和・終末期看護の歴史と現状 1) 緩和ケアの歴史 2) 人生の終焉を迎える人への看護の現状 3) 終末期を過ごす場所・死を迎える場所の理解 (1) 一般病棟における終末期看護 (2) 緩和ケア病棟・ホスピスにおける終末期看護 (3) 在宅における終末期看護	
4		講義	人生の終焉を迎える人と家族の特徴を理解する	4. 人生の終焉を迎える人と家族の理解 1) 患者の特徴 (1) 全人的苦痛とは (2) 身体的特徴 (3) 心理的特徴(死にゆく人の心理過程) (4) 社会的特徴 (5) 霊的特徴(スピリチュアルペイン) 2) 家族の特徴 (1) 家族が体験する苦悩と心理的反応 (2) さまざまな対処行動	
5		講義	人生の終焉を迎える人への援助を理解する	5. 人生の終焉を迎える人への援助 1) 終末期看護の目的 2) 終末期看護の役割	
6	がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	講義	終末期にある人の症状を緩和する援助を理解する	6. 倦怠感の強い終末期の人への援助 1) 終末期の倦怠感とは 2) 倦怠感に対する援助 7. 呼吸困難のある終末期の人への援助 1) 終末期の呼吸困難とは 2) 呼吸困難に対する援助	

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
7	中尾みさ子	講義	終末期にある人の精神症状を緩和する援助を理解する	8. 精神症状のある終末期の人への援助 1) 終末期の不安・抑うつに対する援助 2) 終末期のせん妄に対する援助
8・9			終末期の看取りと悲嘆への援助を理解する	9. 看取りと悲嘆への援助 1) 臨死期の援助 2) 臨終時の援助 3) 臨終時の家族への援助 4) 死後のケア 5) 悲嘆(グリーフ)への援助 10. 人生の終焉を迎える人への看護を担うあなたへの支援
10	がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	講義	在宅移行時期から在宅での終末期の看護を理解する	11. 自宅での看取りに向けた調整の実際 1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院 がん相談支援センターの役割
11	吉江 悟	講義	在宅での臨死期の看護を理解する	12. 自宅で人生の終焉を迎える人の援助 1) 人生の終焉を迎える療養者と家族への援助 2) 臨終のときへの準備
12	吉江 悟	講義	在宅における看取りの実際を理解する	13. 在宅での看取りの実際 1) 身体的症状のコントロール 2) 臨終のときのケアと家族支援
13	渡邊 綾子	講義	児をなくした褥婦と家族への看護を理解する	14. 児を亡くした褥婦と家族の看護 1) 児を亡くした褥婦と家族へのグリーフケア
14	糊澤 昌子	講義	終末期にある子どもへの看護を理解する	15. 終末期にある子どもへの看護 1) 子どもの死の概念 2) 死に対する反応と援助 3) 子どもに対する緩和ケア
15	永野 栄美	講義	終末期にある高齢者への看護を理解する	16. 終末期にある高齢者への看護 1) 終末期にある高齢者への看護 2) 看取り終えた家族への看護
使用テキスト				
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	2	地域・在宅看護の実践 医学書院
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学	4	臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	1	成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学	1	母性看護学概論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学	2	母性看護学各論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	小児看護学	1	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護学		医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護 病態・疾病論		医学書院
系統看護学講座	別巻	緩和ケア 第3版		医学書院
評価方法				
試験で評価する。				
担当講師の実務経験				
専任看護教員 東京慈恵会医科大学附属柏病院 がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師 訪問看護ステーションで訪問看護の経験を有する。				

成人看護学

1. 考え方

成人期は成長発達、成熟、そして衰退へと変化する人間のライフサイクルの中で、最も長い期間にあたる。

成人は一人の人間として、社会の中で中心的役割と責任を担う存在であり、発達段階を達成しながら生活し適応能力を高めていく。それに伴い、個々の価値観や自己概念を形成し、精神的な自律につなげ自己の存在を確認する。成人の健康は、生活習慣や環境、過剰なストレスの影響を受けやすい。そのため、心身上の健康問題から生命の危機状態に陥ったり、予期せぬ死との直面によって本人及び周囲の人々は大きな衝撃を受け、経済的基盤の揺らぎ、社会的役割の変更などの問題を抱える。成人看護学は、成人期にある人の特徴を理解し、人々の成長発達・適応・自律を促し、疾病からの回復への援助とともに成人期にある人の健康を保持増進することをめざす。

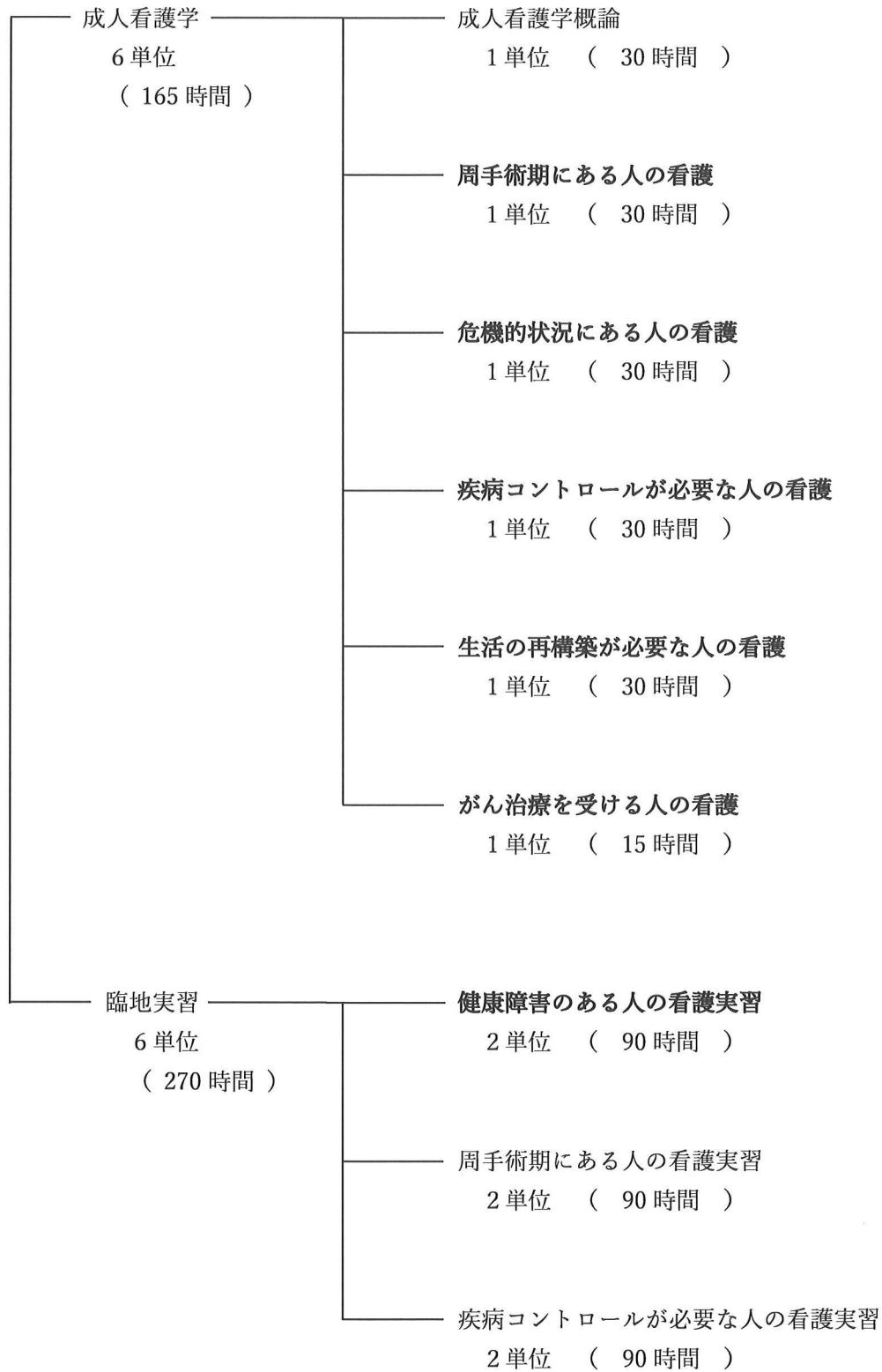
2. 目的

成人の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、さまざまな健康の段階にある人の看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 成人を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- 2) 成人の成長発達・適応・自律をめざし、健康の保持増進のための看護を理解する。
- 3) 成人の健康障害を理解し、健康の段階に応じた看護を理解する。

4. 成人看護学の構成



周手術期にある人の看護				開講時期	2年次 通年	単位数	1	時間数	30
科目責任者		小幡 慶子							
科目設定理由		周手術期にある人の特徴と看護の役割、術前・中・後の心身の変化と看護について理解する。その後、術後患者の事例に応じた看護過程の展開ができることをねらいとする。							
科目目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある人の特徴と看護の役割を理解する。 2. 周手術期にある人の看護を理解する。 3. 周手術期の看護過程の展開ができる。 							
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容					
1	高橋真喜	講義	周手術期にある人の特徴と看護の役割を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある人の特徴 2. 周手術期にある人の看護の役割 					
2		講義	術前看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 3. 術前看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術までの流れ 2) 外来看護の役割 3) 術前のアセスメント 4) 術前からの術後合併症予防 					
3				4. 術中看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術室看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 麻酔導入と体位 (2) 体温管理 (3) 感染予防と事故防止 					
4	手術看護認定看護師	講義	術中看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 5. 術後看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後回復促進の援助（早期離床） 2) 術後合併症の予防 3) 術後の退院後の生活にむけた援助 6. 日帰り手術を受ける人の看護 					
5	高橋真喜	講義	術後看護を理解する 日帰り手術を受ける人の看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 7. 事例に応じた手術を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前・術中・術後の看護 					
6				8. 周手術期患者の事例に応じた看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集・情報整理・アセスメント 2) 関連図・看護上の問題 3) 看護計画 4) 日々の記録 5) 看護計画の評価・日々の記録の評価 					
7	小幡慶子		手術を受ける患者の看護がわかる						
8									
9	小幡慶子 他	講義 グループ ワーク 発表	周手術期患者の事例に応じた看護過程の展開ができる						
10									
11									
12									
13									
14									
15									

使用テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験、グループワーク参加度と看護過程記録提出及び内容で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員
手術看護認定看護師

危機的状況にある人の看護

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

30

科目責任者 中山 千子

科目設定理由

危機的状況にある侵襲的治療や救命救急・集中治療を必要とする人の看護を理解することをねらいとする。

科目目標

1. 危機的状況にある人の特徴と看護の役割を理解する。
2. 危機的状況にある人の看護を理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	中山千子	講義	危機的状況にある人の特徴と看護の役割を理解する	1. 危機的状況にある人の特徴 2. 危機的状況にある人の看護の役割
2		講義	急性の呼吸機能障害のある人の看護が理解できる	3. 急性呼吸不全の人の看護 1) 急性呼吸不全の人の特徴 2) 症状の観察とアセスメント 3) 急性呼吸不全の人の援助 4) 検査・処置に応じた看護
3				(1) 気管支鏡検査を受ける人の援助 (2) 胸腔穿刺、胸腔ドレナージを受ける人の援助
4		講義	ショック状態にある人の看護が理解できる	4. ショック状態にある人の看護 1) ショックの種類と看護 (1) 心原性ショック (2) 循環血液量減少性ショック (3) 血管閉塞性ショック (4) 血液分布不均衡性ショック
5	急性・重症患者看護 専門看護師	講義	危機的状況にある人が治療を受ける場と看護を理解する	5. 治療を必要とする人の治療の場と看護 1) ICU・CCU 2) 認定看護師と専門看護師の役割
6				6. 集中治療室看護の実際 1) 集中治療看護の実際 2) 人工呼吸器を装着する人の看護
7	中山千子	講義	急性の循環機能障害のある人の看護が理解できる	7. 不整脈のある人の看護 1) 不整脈のある人の特徴 2) 症状の観察とアセスメント 3) 不整脈の人の援助 4) 検査・処置に応じた看護 (1) 心電図検査、運動負荷試験時の援助 (2) ペースメーカー挿入術を受ける人の援助

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
8	中山千子	講義	急性の循環機能障害のある人の看護が理解できる	8. 急性心不全のある人の看護
9				9. 虚血性心疾患の人の看護 1) 虚血性心疾患の人の特徴 2) 症状の観察とアセスメント 3) 虚血性心疾患の人の援助 4) 検査・処置に応じた看護 (1) 心臓カテーテルを受ける人の援助 (2) 経皮的冠動脈形成術を受ける人の援助 (3) 大動脈内バルーンパンピング術 (IABP) を受ける人の看護
10				
11	救急看護認定看護師	講義	救命救急治療を必要とする人の看護について理解する	10. 救命救急治療を必要とする人の看護 1) 救急看護の考え方 2) 救急医療体制と救急隊との連携 3) 救命救急センターの看護 (1) 救急看護を受ける人と家族の特徴 (2) 救急看護を受ける人への援助事例 (交通外傷)
12	小幡慶子	講義	急性の脳血管障害のある人の看護が理解できる	11. 急性の脳血管障害 (脳梗塞・クモ膜下出血) がある人の看護 1) 急性の脳血管障害の人の特徴 2) 症状の観察とアセスメント 3) 急性の脳血管障害の人の援助 4) 検査・処置に応じた看護 (1) 経皮的血栓溶解術 (tPA療法) 時の援助 (2) クリッピング術を受ける人の援助
13				
14				
15	中山千子	講義	熱傷を受けた人の看護が理解できる	12. 熱傷を受けた人の看護 1) 熱傷の人の特徴 2) 症状の観察とアセスメント (1) 重症度の観察 3) 熱傷の人の援助 4) 検査・処置に応じた看護 (1) 皮膚移植術を受ける人の援助

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	1	成人看護学総論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	2	呼吸器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	3	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	7	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	12	皮膚	医学書院
系統看護学講座	別巻	救急看護学			医学書院
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論			医学書院
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学	4	臨床看護総論	医学書院

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員
救急看護認定看護師
急性・重症患者看護専門看護師

疾病コントロールが必要な人の看護				開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		中山 久江							
科目設定理由		疾病コントロールが必要な人の特徴を理解し、障害に対する看護やセルフケアのための看護を理解することをねらいとする。							
科目目標		1. 疾病コントロールが必要な人の特徴と看護の役割を理解する。 2. 疾病コントロールが必要な人の看護を理解する。							
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容					
1	中山久江	講義	疾病コントロールが必要な人の特徴と看護の役割を理解する	1. 疾病コントロールが必要な人の特徴 2. 疾病コントロールが必要な人の看護の役割					
2		講義	肝機能障害のある人の看護を理解する	3. 肝機能障害のある人の看護 1) 肝機能障害のある人の特徴と看護 2) 肝機能障害のある人の治療と看護 (1) インターフェロン療法 (2) 肝生検					
3									
4	廣瀬 純	講義	胆嚢・胆管系疾患のある人の看護を理解する	4. 胆嚢・胆管系疾患のある人の看護 1) 胆嚢・胆管系疾患のある人の特徴と看護 2) 胆嚢・胆管系疾患のある人の治療と看護 (1) 胆石症					
5	中山久江	講義	糖代謝障害のある人の看護を理解する	5. 糖代謝障害のある人の看護 1) 糖代謝障害のある人の特徴と看護 2) 糖代謝障害のある人の治療と看護 (食事療法・運動療法・薬物療法) 3) 糖代謝障害のある人の合併症予防と教育的指導・社会資源の活用 (血糖コントロール、フットケア)					
6									
7	糖尿病看護認定看護師	講義							
8	中山久江 他	演習	血糖コントロールが必要な人の技術が修得できる	血糖測定・インスリン療法					
9	中山千子	講義	甲状腺機能障害のある人の看護を理解する	6. 甲状腺機能障害のある人の看護 1) 甲状腺機能障害のある人の特徴と看護 2) 甲状腺機能障害のある人の治療と看護 (1) 甲状腺機能亢進症と低下症 (2) 副甲状腺機能亢進症と低下症					

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
10	中山千子	講義	膠原病患者の看護を理解する	7. 膠原病患者の看護 1) 膠原病のある人の特徴と看護 2) 膠原病のある人の治療と看護 (1) 悪性関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス
11	中山久江	講義	腎機能障害のある人の看護を理解する	8. 腎機能障害のある人の看護 1) 腎機能障害のある人の特徴と看護 2) 腎機能障害のある人の治療と看護 (1) 急性腎不全 (2) 慢性腎不全 (3) 血液・腹膜透析の看護
12	透析室看護師			
13	中山久江			
14	中山久江 中山千子 他	講義 ロール プレイ グループ ワーク	セルフケア・自己管理のための看護の実際がわかる	9. セルフケア・自己管理のための看護 1) 健康教育
15				
使用テキスト				
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	1	成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	5	消化器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	6	内分泌・代謝 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	8	腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	11	アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
評価方法				
出席、レポート提出及び内容、試験、グループワークと演習参加度で評価する。				
担当講師の実務経験				
専任看護教員 糖尿病看護認定看護師 看護師				

生活の再構築が必要な人の看護		開講時期	2年次 通年	単位数	1	時間数	30	
科目責任者		森元 洋子						
科目設定理由		疾病や事故により機能を喪失、損なった人に生じる身体機能の障害や生活機能におよぼす影響、ボディイメージの変化に対する看護について学び、その人の残された機能を活用し、再び社会に適応できるよう生活に視点を当てた看護を理解することをねらいとする。						
科目目標		1. 生活再構築が必要な人の特徴と看護の役割を理解する。 2. 生活の再構築が必要な人の看護を理解する。						
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容				
1	森元洋子	講義	生活の再構築が必要な人の特徴と看護の役割を理解する	1. 生活の再構築が必要な人の特徴 2. 生活の再構築が必要な人の看護の役割				
2		講義	四肢切断をした人への看護を理解する	3. 四肢切断をした人への看護 1) 四肢の一部喪失の特徴 2) 障害の拡大を最小限に抑えるための援助 (拘縮予防・切断肢のケア) 3) 残存機能の維持と強化のための援助 4) 代償動作獲得への援助 (義手・義足装着訓練) 5) 退院後の生活の再構築に向けた援助 (自助具の利用・家屋・社会資源活用)				
3				4. 椎間板ヘルニアの人への看護 1) 椎間板ヘルニアの特徴と生活への影響 2) 障害の拡大を最小限に抑えるための援助 (コルセットの着用・動作や姿勢) 3) 退院後の生活の再構築に向けた援助				
4		講義	椎間板ヘルニアの人への看護を理解する	5. 頸髄損傷をした人への看護 1) 頸髄損傷の特徴と生活への影響 2) 頸髄損傷の経過の特徴と看護 3) 脊髄ショック期の看護 (1) 障害の拡大を最小限に抑えるための援助 (自律神経過反射・痙性・起立性低血圧・下肢の浮腫・排尿障害・褥瘡・関節拘縮) (2) 残存機能の維持と強化のための援助 (3) 残存レベルに合わせたADL再獲得のための援助 (姿勢保持・移乗・移動方法・食事・排尿方法(自己導尿)・排便コントロール・更衣・入浴方法)				
5				6	講義	頸髄損傷をした人への看護を理解する		
7								
8								

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
9	森元洋子	講義	消化管ストーマを造設した人への看護を理解する	6. 消化管ストーマを造設した人への看護 1) ストーマ造設の特徴と生活への影響 2) ストーマ造設術前の看護
10				7. ストーマの観察 1) ストーマ造設による合併症の予防 2) ストーマ装具の種類と特徴 3) ストーマ装具の選択 4) セルフケア確立のための援助 5) 退院後の生活構築に向けた援助
11				
12				
13		講義	尿路ストーマを造設した人の看護を理解する	8. 尿路ストーマを造設した人の看護
14	講義	感覚機能障害のある人への看護を理解する	9. 感覚機能障害のある人への看護 (視覚障害・聴覚障害・味覚-嗅覚障害)	
15				
使用テキスト				
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	1	成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	5	消化器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	7	脳・神経 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	8	腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	10	運動器 医学書院
系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護		医学書院
評価方法				
出席、試験で評価する。				
担当講師の実務経験				
専任看護教員				

がん治療を受ける人の看護		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		高橋 真喜					
科目設定理由		がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に理解し、がん治療の効果を促進し合併症や副作用対策を効果的に実施するための看護を理解することをねらいとする。					
科目目標		1. がん治療を受ける人の特徴と看護の役割を理解する。 2. がん治療を受ける人の看護を理解する。					
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容			
1	高橋真喜	講義	がん治療を受ける人の特徴と生活の場所、看護を理解する	1. がん治療を受ける人の特徴 2. がん治療を受ける人の生活場所			
2			がん治療を受ける人の看護を理解する	3. がん治療を受ける人と家族の看護 4. がんの告知とインフォームドコンセント			
3	がん放射線療法看護認定看護師	講義	放射線療法を受ける人の特徴と看護を理解する	5. 放射線療法を受ける人の特徴 6. 放射線療法を受ける人の看護			
4	がん化学療法看護認定看護師	講義	化学療法を受ける人の特徴と看護を理解する	7. 化学療法を受ける人の特徴 8. 化学療法を受ける人の看護 1) 全身機能・骨髄抑制のアセスメント 2) 抗がん薬の与薬法・管理			
5	がん看護専門看護師	講義	がん性疼痛のある人への援助を理解する	9. がん性疼痛のある人の看護 1) がん性疼痛の定義と分類 2) がん性疼痛に伴う全身的反応 3) がん性疼痛の観察とアセスメント 4) WHO方式がん性疼痛治療5原則 5) 治療薬の種類と特徴 6) レスキュー・ドーズ 7) オピオイド・スイッチング 8) 癌性疼痛緩和のための看護			
6	がん性疼痛看護認定看護師	講義	チームで取り組むがん治療について理解する。	10. チームで取り組む緩和ケア 1) 緩和ケアと緩和ケアチーム 2) 緩和ケアチームの連携の実際（事例使用）			
7	看護師	講義	移植治療を受ける人の特徴と看護を理解する	11. 移植治療を受ける人の看護 1) 造血幹細胞移植と看護 2) 白血病患者の看護			
8							
使用テキスト							
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院							
評価方法							
出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
専任看護教員 がん化学療法看護認定看護師 がん放射線療法看護認定看護師 がん看護専門看護師 がん性疼痛看護認定看護師 病棟看護師							

老年看護学

1. 考え方

老化は生物、物質に起こる現象であり人間も例外ではない。人間は、老化により日常生活に支障をきたすようになると老いを実感する。さらに、生活の中で人の援助が必要になると社会的存在としての自己のあり方を自覚するようになる。人間は老年期までの長いライフサイクルの過程で、身体的、精神的、社会的機能が変化する。

また、その変化を相互に影響させながら、自己実現に向かい発達し続ける存在である。

老年期の人々は、それまで生きてきた長年の豊富な体験と実績という社会の資産である。常に人間として生きる権利を尊重され、尊厳が認められなければならない。

老年看護学のねらいは、老化に応じた生活の支援そして人生の終末まで、できるかぎり自立して人間らしい尊厳を保持するように援助していくことである。そのためには、生活する高齢者を支える医療制度や福祉制度についても考えられるようにする必要がある。

そしてライフステージにおいて老年期は、必ず死を迎えることになりその死について考える機会をもつ。

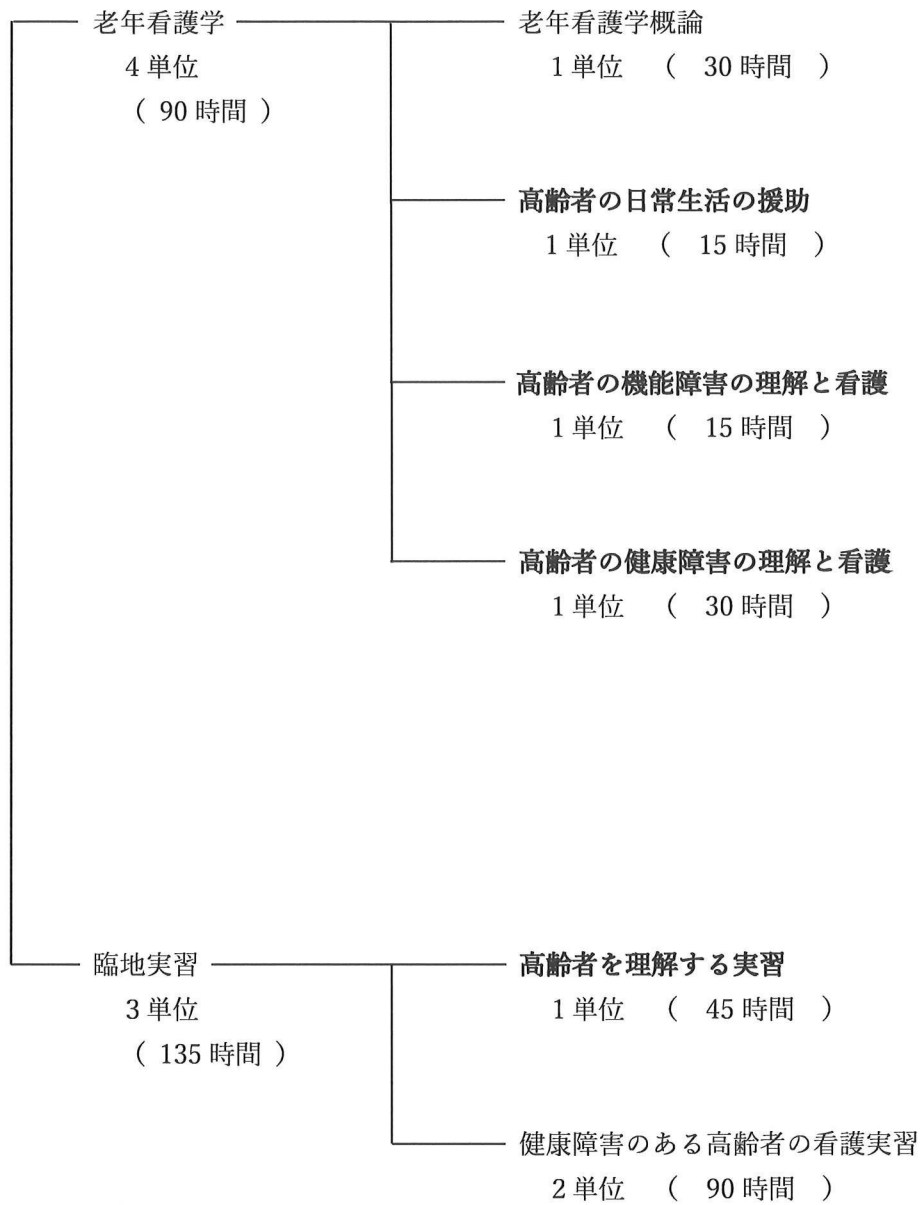
2. 目的

老年期にある対象の特徴を理解し、老化の過程における健康の保持増進、健康障害時の対象およびその家族の看護について学ぶ。

3. 目標

- 1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、高齢者のライフステージを理解する。
- 2) 高齢社会における高齢者の保健医療福祉の動向と課題を理解する。
- 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
- 4) 高齢者の健康障害時の諸問題について知り、障害をもつ高齢者と家族に対する看護の方法を習得する。
- 5) 高齢者の「生」や「死」についての理解を深め、生命や人格を尊重する態度を養う。

4. 老年看護学の構成



高年齢者の日常生活の援助		開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		永野 栄美					
科目設定理由		加齢が高年齢者の生活に及ぼす影響やその変化を理解し、健康維持のための援助を考え技術の習得ができる。					
科目目標		高年齢者の健康的な日常生活の質を維持するための看護を理解する。					
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容			
1	永野栄美	講義	高年齢者の経口摂取の意義とQOLとの関連を理解する	1. 食事・食生活 1) 食生活と栄養			
2	摂食嚥下認定看護師	講義	高年齢者の摂食・嚥下機能に合わせた経口摂取の方法を理解する	2) 摂食・嚥下機能の障害と看護			
3	小幡慶子	講義	高年齢者の排泄の特徴を理解する 排泄の自立に向けた援助を理解する	2. 排泄 1) 高年齢者にとっての排泄			
4 5	永野栄美 他	演習	高年齢者のスキントラブルを予防するための援助を理解する	2) おむつ交換・陰部洗浄演習			
6 7	永野栄美 他	講義 演習	高年齢者に対しての清潔ケアの意義と必要な援助を理解する	3. 清潔・衣生活・身だしなみ 1) 高年齢者にとっての清潔 2) 義歯の取り扱い 爪切り ひげそり			
8	小鮎淳美	講義	高年齢者にとっての生活リズムの重要性とそれを整える援助について理解する	4. 生活リズム			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院 看護技術 プラクティス 学研							
評価方法 演習参加及びレポート、試験で評価する。							
担当講師の実務経験 専任看護教員 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院認定看護師							

高齢者の機能障害の理解と看護					開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		永野 栄美								
科目設定理由		加齢に伴う身体変化及び機能障害を理解し、援助に必要な知識や技術を身につけることをねらいとする。								
科目目標		高齢者に起こりやすい機能障害を理解し、援助に必要な知識・技術を身につけることができる。								
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容						
1	永野栄美	講義	加齢に伴う身体徴候の特徴と必要な看護を理解する	1. 痙痺症のある高齢者の看護						
2		講義	加齢に伴う感覚機能の変調を理解する 感覚機能が低下している高齢者への援助技術を理解する	2. 聴覚機能に障害のある高齢者の看護 3. 視覚機能に障害のある高齢者の看護						
3	永野栄美	講義	加齢に伴う運動機能の変化が理解できる 高齢者の寝たきりによる弊害と予防のための援助を理解する	4. 運動機能に障害のある高齢者の看護 1) 寝たきりの原因・要因と援助 2) 廃用症候群の予防 深部静脈血栓の予防 沈下性肺炎の予防 起立性低血圧の予防						
4				褥瘡の予防・発生時の対応						
5	皮膚排泄ケア認定看護師	講義		3) 高齢者のリハビリテーションの特徴と看護						
6	永野栄美	講義		移乗・移送演習						
7	永野栄美 理学療法士他	演習								
8										
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院										
評価方法 演習参加及びレポート、試験で評価する。										
担当講師の実務経験 専任看護教員／東京慈恵会医科大学附属柏病院認定看護師／東京慈恵会医科大学附属柏病院理学療法士										

高齢者の健康障害の理解と看護					開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		永野 栄美								
科目設定理由		高齢者に起こりやすい健康障害を理解し、それぞれの障害に応じた看護を理解することをねらいとする。								
科目目標		高齢者の健康障害に応じた看護を理解する。								
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容						
1	高橋真喜	講義	治療を受ける高齢者の看護を理解する	1. 治療を受ける高齢者の看護 1) 薬物療法時の看護 2) 検査時の看護 3) 手術療法時の看護						
2										
3	忽滑谷和孝	講義	認知症のある高齢者の看護を理解する	2. 高齢者に起こりやすい疾患の看護 1) 認知症高齢者の看護 (1) 認知症の病態と治療						
4	認知症認定看護師			(2) 認知症高齢者の看護						
5				(3) 認知症高齢者の看護の実際						
6	中山千子	講義	呼吸器疾患のある高齢者の看護を理解する	2) 肺炎のある高齢者の看護 3) 閉塞性肺疾患のある高齢者の看護						
7										
8	永野栄美	講義	大腿骨骨折、前立腺肥大、白内障のある高齢者の看護を理解する	4) 大腿骨頸部骨折のある高齢者の看護 5) 前立腺肥大のある高齢者の看護 6) 白内障のある高齢者の看護						
9										
10										
11	脳卒中看護認定看護師	講義	パーキンソン病、脳梗塞のある高齢者の看護を理解する	7) 脳梗塞のある高齢者の看護						
12										
13	小鮎淳美			8) パーキンソン病のある高齢者の看護						
14										
15	足利裕子		事故・災害に被災した高齢者の看護を理解する	3. 事故・災害の予防と救急への対応 1) 転倒・転落 2) 急変・救急時 3) 災害時						
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院 参考テキスト 新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社										
評価方法 試験で評価する。										
担当講師の実務経験 専任看護教員 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院医師 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院認定看護師										

小児看護学

1. 考え方

小児期は社会的存在としての人間へと絶え間なく成長・発達をとげる時期である。

小児は人間のライフサイクルの初期の段階にあり、絶えず環境との相互作用により成長・発達を続ける。

少子高齢化、核家族化、都市型社会が広まる中で、親の意識、生活環境の変化、保健医療の進歩・発展に伴い、乳幼児死亡は低率国となった。しかし、アレルギーや生活習慣病の増加、青少年の体力の低下、いじめ、虐待、犯罪の低年齢化など、こころと身体健康にかかわる問題や社会的問題が増加している。周囲からの影響を受けやすい小児の健康生活の意義は大きく、国や社会・地域・学校・家族が持つ役割は重大である。

小児看護には、未来を担う一人ひとりの成長・発達を支援し、健康上の問題については安全・安楽で尊厳の守られた援助が求められる。また健康障害が小児とその家族に及ぼす影響は多大で、家族との協力や家族への支援も看護の役割として大きい。さらに、小児自身が自分の健康を生涯守っていけるような保健活動を育てることも必要となる。

小児看護学では、子どもの基本的人権を守り、小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、成長・発達や健康の保持増進を促すとともに、疾病の予防や健康回復にかかわる看護の役割とその方法について学ぶ。

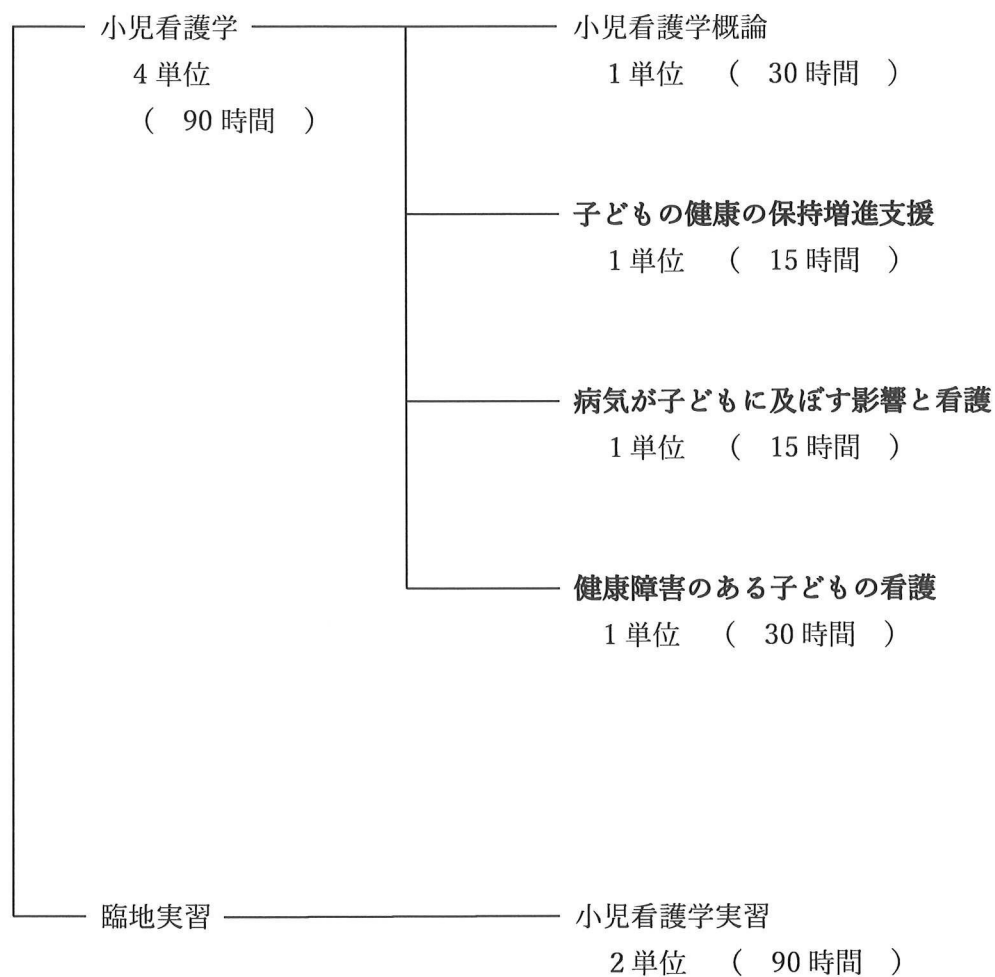
2. 目的

小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、健やかな人間関係を促すとともに、健康の保持増進、疾病の予防、健康回復への看護を実践できる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) 小児の成長・発達の過程について身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解する。
- 2) 小児をとりまく環境の意義を理解する。
- 3) 小児と家族の関係を理解し、看護の役割を理解する。
- 4) 健やかな人間形成と健康な生活を送るための保育、看護を理解する。
- 5) あらゆる健康段階の小児の健康問題を理解し、解決できる基礎的知識、技術を習得する。
- 6) 保健医療福祉チームにおける看護の果たす役割を理解する。

4. 小児看護学の構成



子どもの健康の保持増進支援

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

15

科目責任者

棚澤 昌子

科目設定理由

ヒトは生まれてすぐ身の回りのことや社会生活ができるわけではない。子どもを取り巻く大人が愛情をもって発達途上の部分を補い、擁護していくことが必要になる。小児の健やかな成長・発達のための支援を学ぶことをねらいとする。

科目目標

子どもの発達段階に応じた養育と健康の保持増進のための看護を理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	棚澤昌子	講義	小児各期の生活を理解する	1. 発達段階に応じたコミュニケーション
2				2. 発達段階に応じた日常生活援助
3				1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期
4		講義	子どもにとっての栄養の意義と方法について理解する	3. 食の発達と発達段階別の小児の栄養
5		講義	子どもの遊びの意義と種類を理解する	1) 授乳期の栄養と支援 2) 離乳期の栄養と支援 3) 幼児期の栄養 4) 学童期・思春期の栄養
6	棚澤昌子	講義	子どもの全身状態を査定する方法を理解する	4. 遊びの発達と社会性
7	棚澤昌子 渡辺真由 他	演習	子どもの健康状態を把握する技術を学ぶ	5. 子どものフィジカルアセスメント
8		演習	子どもの日常生活の援助ができる	1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント 一般状態・眼・耳・呼吸・心臓・腹部など
6. 子どもの計測演習				
1) バイタルサイン測定				
2) 身長・体重・頭囲・胸囲				
7. 日常生活援助演習				
1) 抱っこ				
2) 授乳・食事				
3) オムツ交換				

使用テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院

参考図書

講義中に提示する

評価方法

出席、レポート提出・内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員

病気が子どもに及ぼす影響と看護

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

15

科目責任者

渡辺 真由

科目設定理由

子どもと家族はひとつという考えのもとに、健康障害が子どもや家族にどのように影響するのかを知る。また、子どもにおこりやすい症状、検査・処置を学び、発達段階に応じた看護につなげることをねらいとする。

科目目標

病気や入院が子どもにおよぼす影響とその看護を学ぶ。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	渡辺真由	講義	病気や入院が子どもにおよぼす影響とその看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの病気のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの病気の理解 2) 病気の説明とプレパレーション 2. 外来における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来の環境 2) 緊急度の把握（トリアージ） 3. 入院における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の環境と安全確保 2) 入院に伴う子どもの反応 3) 成長・発達に及ぼす影響
2	榑澤昌子	講義	子ども特有の症状とその看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 4. 子どもにおこりやすい症状と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発熱 発疹 <ul style="list-style-type: none"> ・川崎病 2) 脱水 下痢 嘔吐 <ul style="list-style-type: none"> ・急性胃腸炎 3) けいれん <ul style="list-style-type: none"> ・熱性けいれん ・てんかん
3	渡辺真由			
4				
5	渡辺真由	講義	検査・処置を受ける子どもの看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 5. 検査の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検体採取 <ul style="list-style-type: none"> 採血 採尿 抑制 2) 骨髄穿刺、腰椎穿刺 6. 与薬の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経口与薬、注射 2) 輸液管理
6				

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
7	看護師	講義	手術を受ける子どもの看護を理解する	7. 子どもと手術 1) 子どもの手術の特徴 2) 手術を要する健康障害と手術の時期 3) 計画手術と緊急手術 4) 日帰り手術 5) 手術中の看護 (1) 手術前の看護 (2) 手術中の看護 (3) 手術後の看護
8				8. 痛みのある子どもの看護 1) 子どもの痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 緩和への援助
使用テキスト				
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院				
参考図書				
講義中に提示する。				
評価方法				
出席、レポート提出・内容、試験で評価する。				
担当講師の実務経験				
専任看護教員 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院看護師				

健康障害のある子どもの看護

開講時期 2年次後期 単位数 1 時間数 30

科目責任者		渡辺 真由			
科目設定理由		子どもの健康障害は、一時的な苦痛体験だけでなく、生涯にわたり障害を残す場合もある。子どもに起こりやすい疾患を知り、生命の危機から守り、健やかな成長・発達を脅かす苦痛や恐怖を緩和するために必要な看護を学ぶことをねらいとする。			
科目目標		健康障害が子どもにおよぼす影響とその看護を理解する。			
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
1	渡辺真由	講義	生活制限が必要な子どもの看護を理解する	1. 生活制限の種類と目的	
2				2. 安静療法が必要な子どもの看護 1) 骨折のある子どもの看護 2) 紫斑病のある子どもの看護	
3	棚澤昌子	講義	先天的障害のある子どもの看護を理解する	3. 隔離が必要な子どもの看護 1) 小児感染症	
4				4. 先天異常の種類と特徴 5. 先天異常の子どもの看護 1) ダウン症候群 2) 18トリソミー他	
5	足利裕子	講義	子どもに多い疾患とその看護を理解する	6. 心身障害の定義と種類 1) 心身障害児の看護	
6	看護師	講義	子どもに多い疾患とその看護を理解する	7. 循環器疾患と看護 1) ファロー四徴症のある子どもの看護	
7	渡辺真由	講義	子どもに多い疾患とその看護を理解する	8. 呼吸器疾患と看護 1) クループ症候群のある子どもの看護 2) 細気管支炎のある子どもの看護 3) 肺炎のある子どもの看護	
8	足利裕子	講義	子どもに多い疾患とその看護を理解する	9. アレルギー疾患と看護 1) 気管支喘息のある子どもの看護 2) 食物アレルギーのある子どもの看護	
9	足利裕子	講義	子どもに多い疾患とその看護を理解する	10. 消化器疾患と看護 1) 腸重積のある子どもの看護 2) ヒルシュスプリング症のある子どもの看護 3) 鎖肛のある子どもの看護	
10	渡辺真由	講義 グループワーク	自己管理・生活指導が必要な子どもの看護を理解する	11. 腎・泌尿器疾患と看護 1) 尿路感染症のある子どもの看護 2) ネフローゼのある子どもの看護	
11				12. 疾患の特徴と治療	
12				13. セルフケアの獲得への援助 1) セルフケア行動の促進	
13				14. 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 1型糖尿病の子どもの看護	
14	看護師	講義	長期に治療が必要な子どもの看護を理解する	15. 小児がんの子どもの看護 1) 化学療法を受ける子どもの看護 2) 放射線療法を受ける子どもの看護	
15				16. 白血病をもつ子どもの看護	

使用テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院

参考図書

講義中に提示する。

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員 東京慈恵会医科大学附属病院看護師 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター看護師

母性看護学

1. 考え方

母性看護学は、女性の一生を通して、自己実現と次代の育成に向けて、より高い健康レベルをめざして援助することを目的とした学問体系である。

女性が主体的な自己実現を果たすためには、特に女性のリプロダクティブヘルス／ライツが保障されることが重要である。そこで母性看護学では、人間を母性機能の側面からとらえ、リプロダクティブヘルス／ライツの実現に向け、母性各期に大きく変化する身体的特徴や、その身体的変化に伴う精神的・社会的な特徴を理解する。そして健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。

また、今日は女性および母子をとりまく生活環境は著しく変化し、女性のライフサイクルや家族形態にも影響を及ぼしている。さらに生命倫理の問題など、医療技術の進歩により医療への期待が変化している。このような社会変化やニーズをとらえた看護のあり方を考える。

そして、自らが次代を担う母性看護の対象者として、健康な日常生活を実践する能力や態度を養う。また、周産期における母性および胎児・新生児の看護を通して生命の神秘・生命の尊厳について考えると共に、看護者としての態度を育成する。

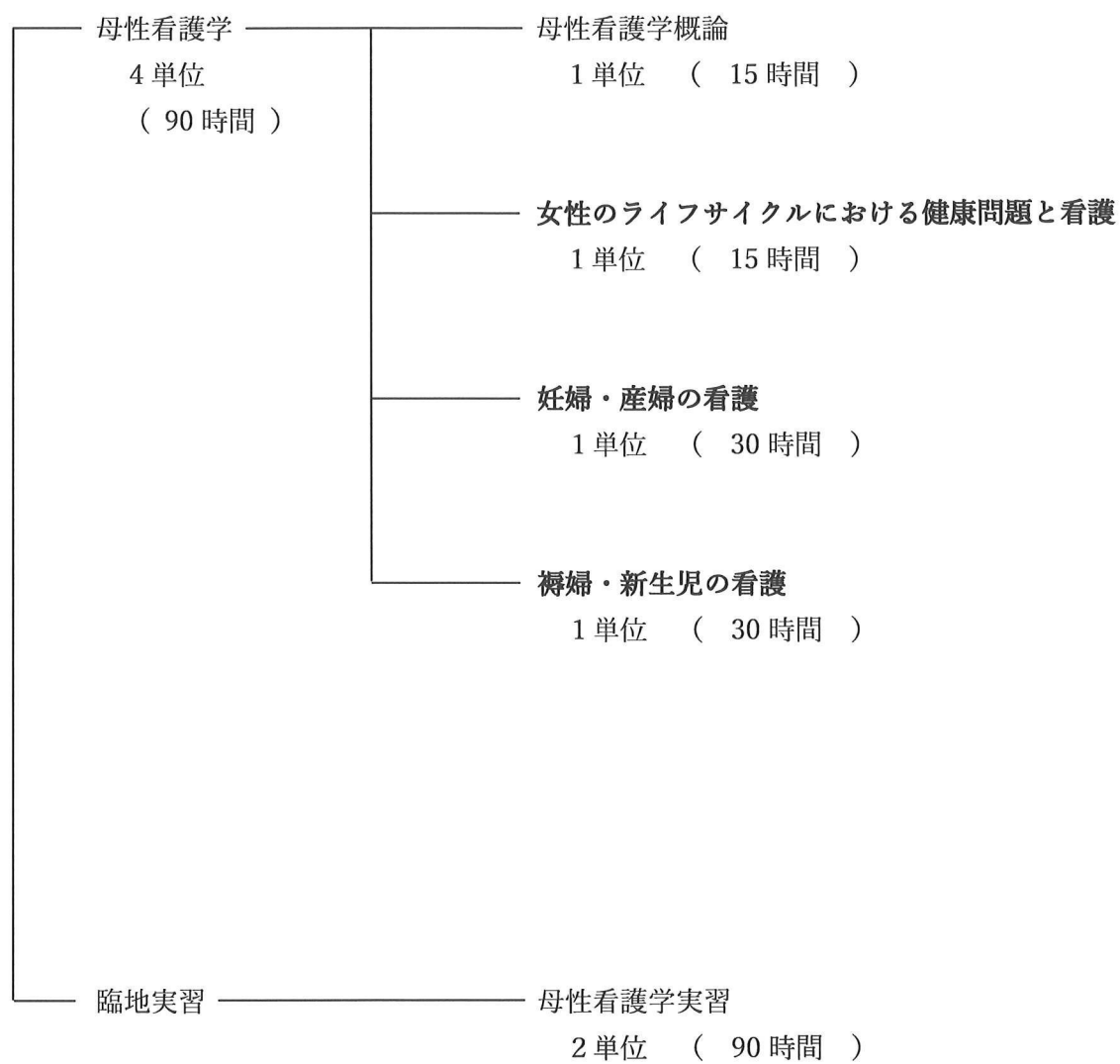
2. 目的

次代の育成に向けて母性各期の特徴を総合的にとらえ、対象がより健康なライフサイクルを送るために適切な援助ができる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) ヒトのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義および母性看護の役割を理解する。
- 2) 母性看護の対象のライフサイクルと母性各期の特徴、および社会の変化による母性の心身に及ぼす影響やニーズを理解する。
- 3) 母性の健康に影響を及ぼす諸因子を知り、リプロダクティブヘルス／ライツを実現するための保健対策と保健活動を理解する。
- 4) 周産期における対象の健康問題を解決するための援助方法を理解する。
- 5) 周産期における対象の看護を通して生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養うとともに看護者としての態度を育成する。

4. 母性看護学の構成



女性のライフサイクルにおける健康問題と看護					開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		渡邊 綾子								
科目設定理由		1年次の母性看護学概論をふまえ、女性のライフサイクル上の発達学的特徴と健康問題を関連させ、女性のライフサイクル各期で起こりやすい病態生理と治療を理解し、それぞれの障害に応じた看護を理解することをねらいとする。								
科目目標		1. 女性の各期における健康問題と看護を理解する。 2. 女性生殖器に障害をもつ人の看護を理解する。								
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容						
1	渡邊 綾子	講義	思春期に起こりやすい健康問題と看護を理解する	1. 思春期の健康問題と看護 1) 月経異常 2) 若年妊娠 3) 人工妊娠中絶、性行為感染症						
2	渡邊 綾子	講義	成熟期に起こりやすい健康問題と看護を理解する	2. 性成熟期の健康問題と看護 1) 月経困難症 2) 月経前症候群 3) 家族計画						
3	医師 毛利 心	講義		3. 女性の健康問題の診断と治療 1) 不妊症 2) 不育症 3) 出生前診断の理解						
4	渡邊 綾子	講義	更年期に起こりやすい健康問題と看護を理解する	4. 更年期の健康問題と看護 1) 更年期障害						
5	小幡 慶子	講義	女性生殖器に障害をもつ人の特徴と看護を理解する	5. 女性生殖器疾患をもつ人の看護 1) 主な検査と治療における看護 2) 乳房疾患の特徴と看護（乳がん） 3) 良性疾患の特徴と看護（子宮筋腫・子宮内膜症） 4) 悪性疾患の特徴と看護（子宮がん・卵巣がん）						
6										
7	山田 文代									
8										
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院										
評価方法 出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。										
担当講師の実務経験 専任看護教員 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師 助産師の経験があり、地域中核病院において副看護部長の経験を有する。また、複数の看護大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。										

妊婦・産婦の看護

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

30

科目責任者		渡邊 綾子		
科目設定理由		妊娠・分娩各期の正常経過における身体的変化、心理的变化、社会的変化を理解する。各期のアセスメント、保健指導、家族を含めた看護を学び、健康をめざした安全な援助方法を理解することをねらいとする。		
科目目標		妊娠期・分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を理解し、妊婦・産婦の看護を理解する。		
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	渡邊 綾子	講義	妊娠期の母体の変化が理解できる	1. 妊娠期の身体的特性 1) 妊娠の定義、妊娠の生理、妊娠の成立、妊娠週数 2) 母体の生理的变化
2				2. 妊娠期の検査 1) 検査の目的 2) 妊娠期の感染症
3				3. 妊婦と家族の心理的变化が理解できる 1) 愛着形成 2) 母親役割獲得
4				4. 胎児のアセスメント 1) 胎児の発育と健康状態
5	山田 文代	講義	妊婦の日常生活の援助が理解できる	5. 妊娠中の日常生活と保健指導 1) 日常生活に関するアセスメント 2) 妊婦が受ける母子保健サービス 3) 妊婦の健康相談・教育
6				
7	渡邊 綾子	講義	妊娠期の準備教育が理解できる	6. 親になるための準備教育 1) 出産準備教育 2) 育児準備のための教育
8	渡邊 綾子 助産師	講義 演習	妊娠期に必要な看護技術を身につける	7. 妊娠期に必要な看護技術の実際 1) レオポルド触診法、腹囲測定、子宮底測定 2) 妊娠中の保健指導の実践 (1) 呼吸法 (2) 妊婦体操
9	医師 毛利 心	講義	妊産婦の異常が理解できる	8. 妊産婦に起こりやすい異常 1) ハイリスク妊娠 (1) 流早産 (2) 妊娠高血圧症候群 (3) 妊娠糖尿病 (4) 多胎妊娠
10		講義		2) 分娩時に起こりやすい異常 (1) 異常出血 (2) 前置胎盤 (3) 常位胎盤早期剥離 (4) 胎児機能不全 (5) 深部静脈血栓症

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
11	渡邊 綾子	講義	分娩期の母体と胎児の変化が理解できる	9. 分娩期の看護 1) 分娩の生理、分娩の3要素 2) 分娩の経過、分娩の機序 3) 産婦と胎児のアセスメント 4) 産婦の心理
12				
13				
14	助産師	講義	分娩期の看護が理解できる	10. 分娩期の看護の実際 1) 分娩第1期、分娩第2期の看護 2) 分娩第3期、分娩第4期の看護
15	渡邊 綾子			
使用テキスト				
系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院				
評価方法				
出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。				
担当講師の実務経験				
専任看護教員 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師 助産師の経験があり、地域中核病院において副看護部長の経験を有する。また、複数の看護大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。				

褥婦・新生児の看護

開講時期

2年次
後期

単位数

1

時間数

30

科目責任者

渡邊 綾子

科目設定理由

産褥期の正常経過における身体的変化、心理的变化、社会的変化を理解する。新生児の看護では出生を境にした新生児の子宮外適応現象と正常な生理的变化を理解し、児の健康な発達を促進する援助方法を学習する。また、産褥・新生児各期のアセスメント、保健指導、家族を含めた看護を学び、健康をめざした安全な援助方法を理解することをねらいとする。

科目目標

1. 褥婦の経過と看護について理解できる。
2. 新生児の経過と看護について理解できる。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
1	渡邊 綾子	講義	産褥期の経過について理解できる	1. 産褥の生理と経過 1) 退行性変化 2) 進行性変化	
2			褥婦の日常生活とセルフケアについて理解できる	2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦の健康を促す看護 1) 産褥復古を促す看護 2) 母乳育児を促す看護 3) 育児技術習得のための援助 4) 退院後の生活を円滑に進めるための援助	
3				講義演習	褥婦・新生児に必要な看護援助技術を身につける
4		講義			褥婦の心理的变化が理解できる
5			産褥の異常とその看護について理解できる		6. 産褥の異常と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産後うつ 5) 死産
6				帝王切開の看護を理解できる	7. 帝王切開術を受ける妊産褥婦への看護
8	山田 文代	講義	新生児の経過について理解できる	8. 出生直後の看護 1) 出生直後の新生児のアセスメントと看護 9. 新生児の生理と経過 1) 新生児の健康と発育のアセスメント	
9			新生児の日常生活の援助を理解できる	10. 新生児の日常生活援助 1) バイタルサイン測定と全身観察 2) 清潔、排泄、栄養、活動と休息、睡眠 3) 保育環境	
10					

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
11	医師 生駒 直寛	講義	新生児の異常と治療を理解できる	11. 新生児の異常と治療 1) 低出生体重児・早産児・新生児仮死 2) 高ビリルビン血症	
12	看護師	講義	新生児の異常と看護について理解できる	12. 新生児の異常と看護 1) 低出生体重児・早産児への看護 2) デベロップメンタルケア 3) 母子分離の看護	
13	渡邊 綾子	講義 演習	褥婦への看護過程の展開方法が理解できる	13. ウェルネス志向の看護過程 1) 正常な経過をたどる褥婦の看護過程の展開 2) 保健指導の指導計画立案	
14					
15					
使用テキスト					
系統看護学講座	専門分野	母性看護学	1	母性看護学概論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学	2	母性看護学各論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	小児看護学	2	小児臨床看護各論	医学書院
評価方法					
出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。					
担当講師の実務経験					
専任看護教員 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師・看護師 助産師の経験があり、地域中核病院において副看護部長の経験を有する。また、複数の看護大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。					

精神看護学

1. 考え方

人間は身体的・精神的・社会的に統合された存在であり、その人を取り巻く環境とのバランスを保ちながら生きている。しかし、社会的構造の複雑化に伴い人々はストレスにさらされることが多くなり、そのバランスが保ちにくい状況から心の健康問題を引き起こしやすくなっている。したがって精神看護の対象は心身の健康・不健康を問わず、すべての人々であり実践の場は多岐に渡り看護全般に関連する。精神看護はその人らしく生きていくことを支援する学問である。そのため心の発達や心の健康の保持増進のための援助を学ぶ必要がある。

近年、精神障害のある対象をめぐる社会は大きく変化し、「入院医療中心」から「地域生活中心へ」という改革がすすめられている。そのため、精神障害のある対象はどのような生きにくさを感じているのかを知り、地域での生活を目指し、それを継続するための法制度や社会資源の概要を理解する必要がある。

また、精神看護において患者－看護師関係の形成やそれを発展させるコミュニケーションは治療環境の重要な一端である。そしてその実践には自らをケアの道具としてかわり自己の傾向に気づき自分自身について知ることおよび対象を理解することが必要である。さらには自身の精神の健康増進に活かせるようにしていく必要がある。

精神看護は対人関係を通して看護を展開するものであり、すべての看護の基盤であり、看護にとって不可欠な領域と考える。

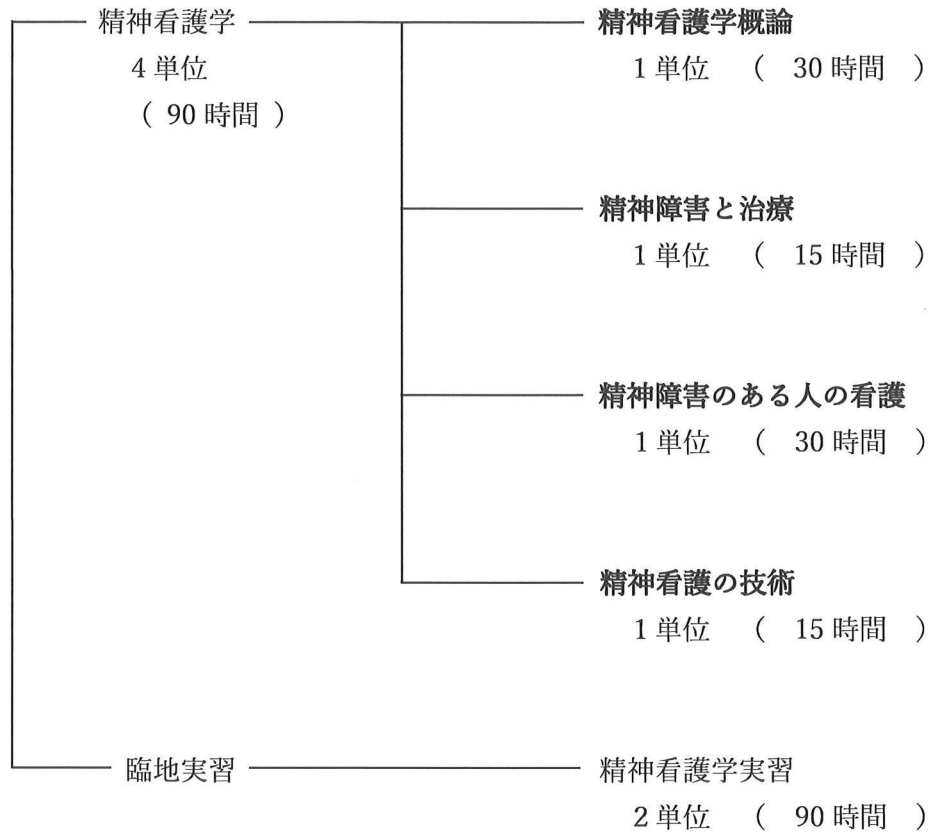
2. 目的

精神看護の対象を理解し、こころの健康を保持増進するための看護及び、危機的状況にある人々や精神に障害のある人への看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 精神看護の対象を理解し、看護の果たす役割を理解する。
- 2) 精神の健康の保持増進のため、心の発達や心の健康に関連する要因を理解する。
- 3) 精神看護が展開される場や援助方法を学び、精神保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解する。
- 4) 精神保健医療福祉体制の実際を学び、地域ケアにおける社会資源の活用方法を理解する。
- 5) 精神医療の歴史的・社会的変遷から、人権の尊重について理解する。

4. 精神看護学の構成



精神看護学概論

開講時期

2年次
前期

単位数

1

時間数

30

科目責任者 都留 万里子

科目設定理由

現代社会は価値観の多様化から家族関係や学校、職場にもこころの健康問題のそのケアの必要性が重要視されている。精神保健医療福祉の変遷を知り精神看護の基本的な考え方について学ぶことをねらいとする。

科目目標

1. 精神看護の対象を理解し、精神看護の機能と役割を学ぶ。
2. 精神の健康について学び、精神看護の意義を理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	都留万里子	講義	精神看護学とは何か、基本的な考え方が理解できる	1. 精神看護学の定義 1) 精神看護とは 2) 精神看護学の役割の広がり
2	赤石澤幸子	講義	精神の健康について理解できる	2. 精神の健康 1) 精神の健康とは 2) 精神の健康を支える要因
3				3. 精神の障害
4				4. ストレスマネジメント
5	都留万里子	講義	精神医療に関わる歴史の変遷から、精神医療と看護の動向が理解できる	5. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 1) 日本と諸外国の精神保健看護の歴史 2) 精神保健医療に関わる法制度の変遷
6				6. 精神保健福祉法における医療の形態と処遇
7				
8		講義	精神保健福祉法の考え方と人権について理解できる	7. 法の運用と看護ケア 1) 精神障害と差別
9				
10	赤石澤幸子	講義	人間の心の発達と精神の健康について理解できる	8. 精神の発達 9. 家族と精神の健康
11				
12	都留万里子	講義	学校・職場・仕事と精神の健康について理解できる	10. 現代社会と精神の健康
13				
14	高木明子	講義	リエゾン精神看護について理解できる	11. リエゾン精神看護
15	赤石澤幸子	講義	地域で生活している精神障害者を知ることができる	12. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援

使用テキスト

新体系 看護学全書 精神看護学概論/精神保健 精神看護学① メヂカルフレンド社
新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社

評価方法 出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員 / リエゾン精神看護師

精神障害と治療

開講時期

2年次前期

単位数

1

時間数

15

科目責任者 都留 万里子

科目設定理由 精神障害を持つ人の看護を実践するために、必要な基礎的知識となる精神障害の特徴を理解することをねらいとする。

科目目標 精神障害と治療について理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	忽滑谷和孝	講義	精神に障害のある対象を理解するための基礎的知識を得ることができる	1. 心の働きと脳 1) 精神症状論
2				2. 精神症状の診断と分類 1) 主な検査 (医学的検査・心理検査など)
3				3. 精神障害の分類 1) DSMとICD 4. 精神疾患と治療 1) 神経発達障害群 (知的能力・知的発達障害) 2) 摂食障害
4	岡部 究			3) 統合失調症 4) てんかん
5	亀山 洋			5) 気分障害 6) 睡眠障害
6	亀山 洋			7) 神経症性障害 8) 身体表現性障害 9) ストレス関連障害 10) 精神作用物質による精神および行動の障害
7	忽滑谷和孝			11) パーソナリティ障害 12) 性別違和(性同一性障害) 13) 自閉スペクトラム症 (アスペルガー症候群) 14) 注意欠如・多動性障害 15) 限局性学習症 (学習障害)
8				5. 精神障害の治療 1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会療法

使用テキスト

新体系 看護学全書 精神看護学概論/精神保健 精神看護学① メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社

評価方法

試験で評価する。

担当講師の実務経験

東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師

精神障害のある人の看護

開講時期

2年次
通年

単位数

1

時間数

30

科目責任者 都留 万里子

科目設定理由 精神障害のある人に対する基本的なケアを学び、生活の特徴と家族を含めた看護のありかたを学ぶことをねらいとする。

科目目標 精神障害のある対象の特徴を理解し、援助方法が理解できる。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
1	赤石澤幸子	講義	精神に障害のある人の実際と看護の基本が理解できる	1. 治療を受ける対象の看護 1) 精神障害を持つ人とのコミュニケーション 2) 入院治療・治療的環境 3) 日常生活行動の援助 4) 薬物療法を受ける対象の看護 バーチャルセッション体験 5) 電気けいれん療法を受ける対象の看護	
2					
3					
4	認定看護師	講義	精神の障害が生活に及ぼす影響と対象の心理が分かる	2. 行動制限時の看護 1) 隔離・身体拘束における看護	
5	作業療法士 沼口 俊介			3. 精神科における作業療法の実際 1) 治療としての作業療法・看護職者との連携	
6	都留万里子	講義	疾患のある対象の看護の基本が理解できる	4. 主な疾患のある患者の看護 1) 気分障害(うつ病・双極性障害) 2) 不安障害(パニック障害・PTSD)	
7					
8	赤石澤幸子			3) 依存症(アルコール・薬物) 4) 境界型パーソナリティ障害・摂食障害	
9					
10	赤石澤幸子			疾患のある対象の看護の基本が理解できる	5) 統合失調症(急性期) 6) 統合失調症(回復期)
11					
12	都留万里子	7) 統合失調症(慢性期)			
13	濱田 淳子	講義	地域における精神看護の実際が分かる	5. 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 1) 社会資源の活用 2) 精神科訪問看護と精神科デイケアの実際	
14					
15					

使用テキスト

新体系 看護学全書 精神看護学概論/精神保健 精神看護学① メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員 / リエゾン精神看護師 / 精神科認定看護師 / 精神科作業療法士

精神看護の技術					開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		都留 万里子								
科目設定理由		こころの健康の維持・増進や回復を促すための基本的技術を理解すること、また、自己を振り返り自己受容できる姿勢を養うために再構成の技法を用いて自己洞察を深めることをねらいとする。								
科目目標		1. 精神に障害のある対象の看護過程の展開について学ぶ。 2. 再構成の理論と、患者・看護師関係を発展させるための方法を学ぶ。								
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容						
1	都留万里子	講義	精神に障害のある対象の看護過程の展開方法が理解できる	1. セルフケア理論 1) オレム・アンダーウッド看護モデル						
2				2. 精神障害をもつ人への看護援助の展開 1) うつ病急性期にある患者の看護過程の展開						
3		グループワーク		3. 看護におけるカウンセリングの基礎 1) カウンセリングの基本姿勢と技法 2) 認知行動療法 3) 森田療法						
4				4. 再構成 1) 再構成の理論・再構成の実際 2) 再構成による振り返りの実際 3) 自己の振り返りと自己受容						
5	川上 正憲	講義	看護におけるカウンセリングの基本的な姿勢が分かる							
6	都留万里子	講義 グループワーク	再構成の活用方法が理解できる							
7										
8										
使用テキスト 新体系 看護学全書 精神看護学概論/精神保健 精神看護学① メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社 宮本眞巳：看護場面の再構成 日本看護協会出版会										
評価方法 出席、レポート課題提出及び内容、試験で評価する										
担当講師の実務経験 専任看護教員 / 大学院心理学専攻 教授										